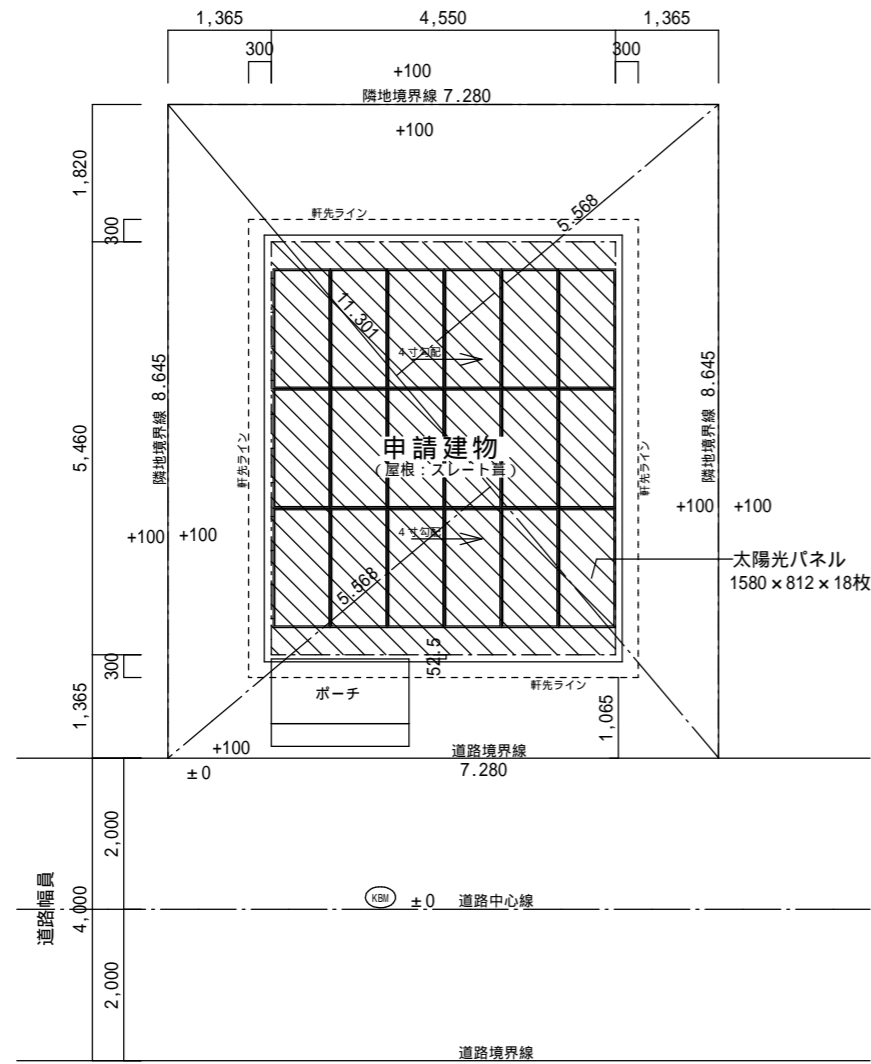
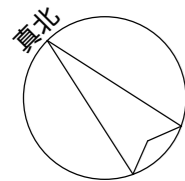


本図面は、構造審査に必要な意匠・設備関係図（内外装仕上表・太陽光パネル仕様、給湯機（令129条の2の3関係）など）の記載を省略し、構造関係のみをモデル化したものである。



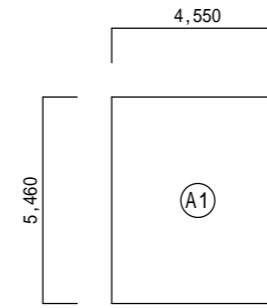
配置図 S:1/100



敷地面積			
底辺(m)	高さ(m)	倍面積(m ²)	
①	11.301	5.568	62.923968
②	11.301	5.568	62.923968
倍面積計		125.847936	
敷地面積(m ²)		62.92	丸め 切り捨て

トータル面積表 (m ²)	
敷地面積	62.92
建築面積	24.84
床面積 1階	24.84
2階	24.84
延床面積	49.68
建築率	(24.84/62.92) × 100 = 39.48%
容積率	(39.75/62.92) × 100 = 63.18%
建築可能建築率	60.00%
建築可能容積率	100.00%

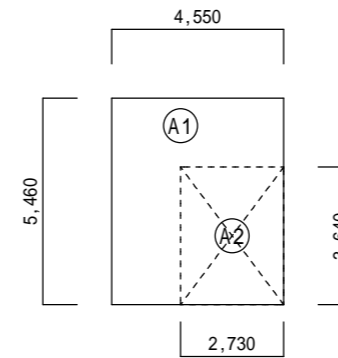
丸め面積 切り捨て
面積率 切り上げ



建築面積求積図 S:1/200

建築面積表			
形状	計算式	面積	
①	矩形	4.550 × 5.460	24.843000
		計(m ²)	計(坪)
合計		24.84	7.51

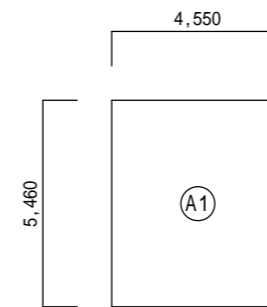
丸め 切り捨て



1階 床面積求積図 S:1/100

床面積表<1階>			
形状	計算式	面積	
①	矩形	4.550 × 5.460	24.843000
②	自動車庫等	2.730 × 3.640	*-9.937200
		計(m ²)	計(坪)
合計		24.84	7.51

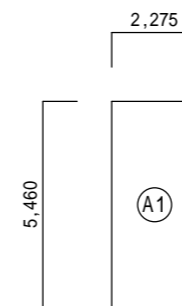
* 緩和対象部分 丸め 切り捨て



2階 床面積求積図 S:1/200

床面積表<2階>			
形状	計算式	面積	
①	矩形	4.550 × 5.460	24.843000
		計(m ²)	計(坪)
合計		24.84	7.51

丸め 切り捨て



小屋裏収納 S:1/200

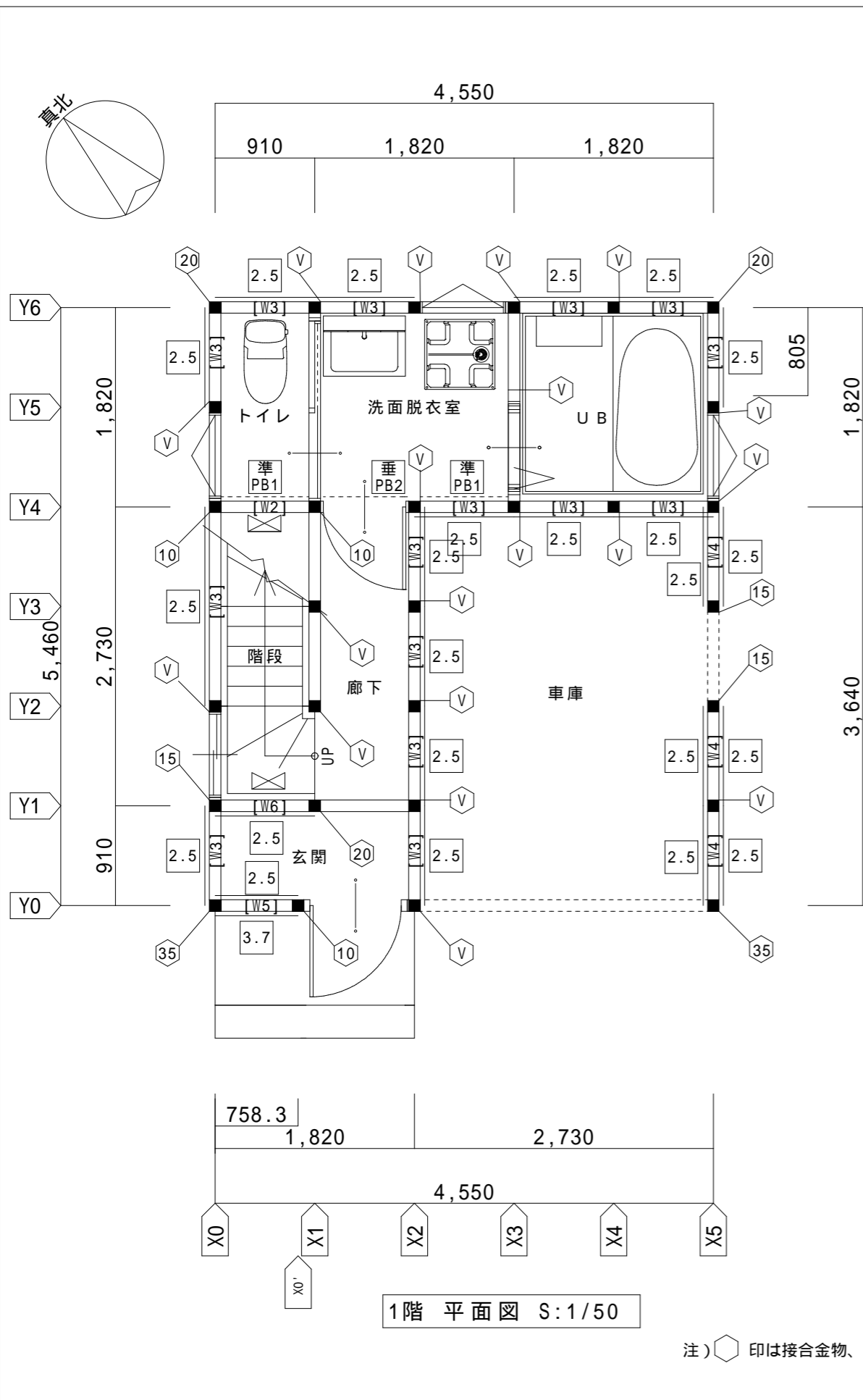
床面積表<小屋裏>			
形状	計算式	面積	
①	矩形	2.275 × 5.460	12.421500
		計(m ²)	計(坪)
合計		12.42	3.75

丸め 切り捨て

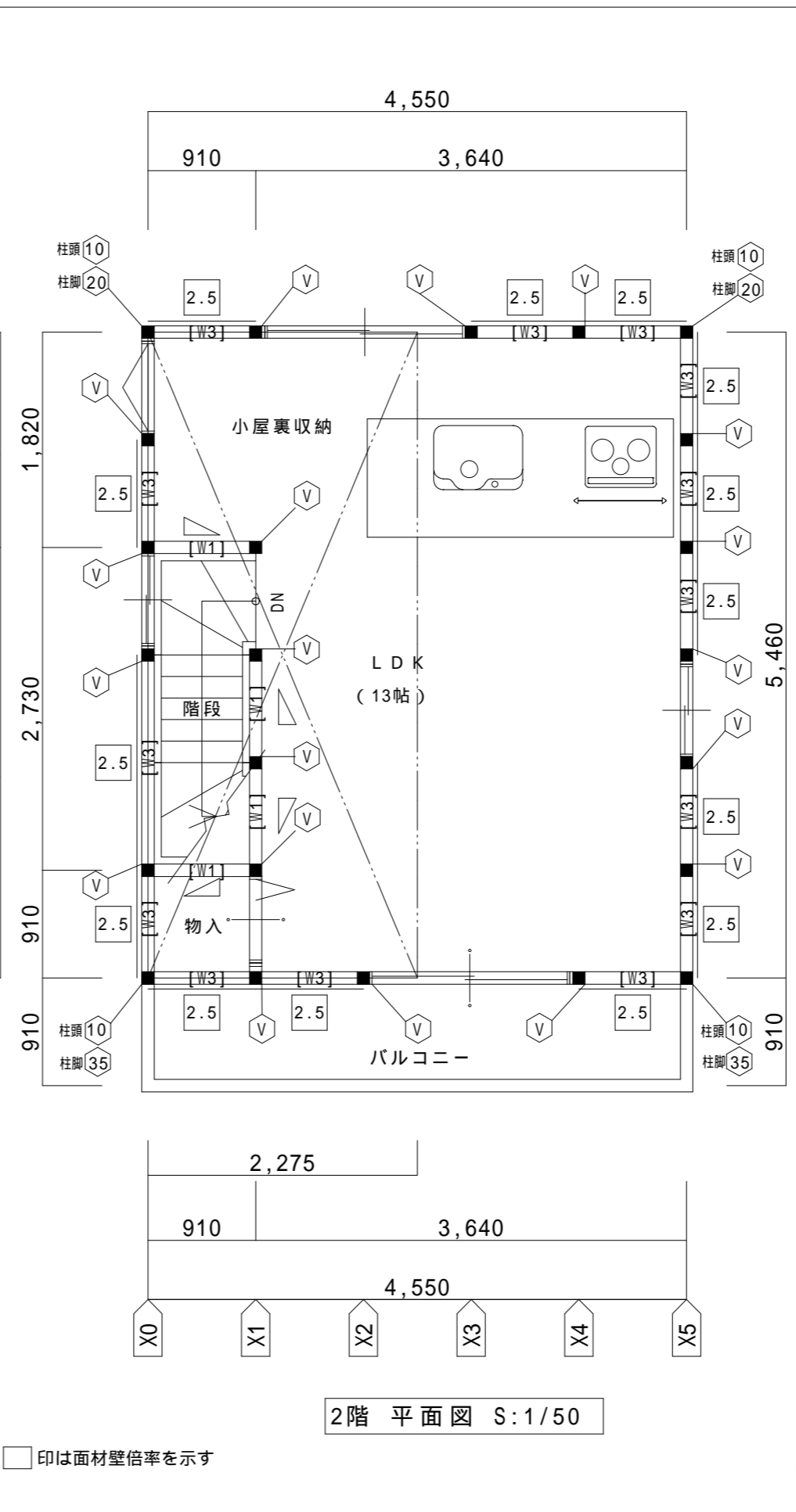
備考	設計者 級建築士事務所 建築設計事務所 級建築士事務所 ○○○知事登録 第○○○○○号 級建築士 ○○○登録 第○○○○○号 氏名○○ 太郎	件名 (仮称) A邸 新築工事	図面名称 配置図・求積図	図面番号 1
		検図	作図年月日 2026.02.28	縮尺 1/100

仕 様 表		(単 位 : 特 記 無 き 限 り mm)		
項 目	小 項 目	仕 様	備 考	
建築材料 (法第37条)	基礎コンクリート	JIS A5308	設計基準強度Fc21N/mm ² 、スランプ18cm以下	
	基礎鉄筋	JIS G3112	SD295	
法第2章第2節 (居室の天井の高さ、床の高さ、および防湿方法)	居室の床の高さおよび防湿方法 (令第22条)	床の高さ	GL + 561	
		防湿方法	ベタ基礎及びねこ土台	
令第3章第2節 (構造部材等)	構造部材の耐久 (令第37条)	構造耐力上主要な部分	腐食・腐朽・摩損のおそれのあるものに腐食等防止措置	
		基礎 (令第38条)	支持地盤の種別及び位置	粘性土地盤 (GL-400)
	基礎 (令第38条)	基礎の種類	鉄筋コンクリート ベタ基礎	
		基礎の底部の位置	建物外周部基礎の根入れ : GL-300、地盤面からの深さ (底版部) : GL-100	
		基礎の底部に作用する荷重数値の算出方法	地盤の長期許容応力度 20kN/m ²	
	地盤調査 (令第38条)	木杭及び常水面の位置	対象外	
		鉄筋	主筋・スラブ筋 : D13 その他 : D10	
	屋根ふき材等 (令第39条)	地盤調査	SWS試験による	
		地盤改良	該当無し	
	令第3章第3節 (木構造)	木材 (令第41条)	屋根ふき材の固定方法	採用建材毎の標準施工方法による
屋外に面する部分のタイル等の緊結方法			該当無し	
土台および基礎 (令第42条)		太陽光システム等を設置した際の防錆処理	採用システム毎の標準施工方法による。取付け金物等は防錆処理された材料を使用する	
		柱脚の固定方法	横架材・柱材 : 集成材、その他無等級材 耐力上欠点のないこと	
柱の小径 (令第43条)	土台の固定方法	土台105角 (ヒノキKD) を設ける		
	横架材間距離	M12アンカーボルト + 座金4.5×40角×14 により緊結。柱心から200以内に設置 設置間隔2,700以内		
はり等の横架材 (令第44条)	柱断面の欠き取り (1/3以上) の有無	柱小径105 (共通) (1階) 横架材相互間垂直距離の最大2,895 柱の小径と横架材間内法寸法の比率 : 1/27.6 (2階) 最大2,695 比率 : 1/25.7		
		2階建ての隅柱		
筋かい (令第45条)	筋かいの断面	HD金物で上下柱を緊結 (通し柱なし)		
		有効細長比 (最大値)		
構造耐力上主要な軸組 (令第46条)	筋かいの欠き込み	1階 座屈長さ : 2,895 断面二次半径 : 30.31 柱の有効細長比 95.5 150		
		2階 座屈長さ : 2,695 断面二次半径 : 30.31 柱の有効細長比 88.9 150		
継手・仕口 (令第47条)	中央部付近の下側に耐力上支障のある欠き込み	欠き込みなし		
	筋かい端部	45x90		
防腐処置等 (令第49条)	耐力壁両側柱頭・柱脚	N値計算による		
	その他の柱頭・柱脚	特記なきはCP-T互換金物		
令第3章第4節の2 (補強コンクリートブロック造)	小屋組みの接合方法	垂木・軒桁 : ひねり金物ST-15、その他木造工事標準図による		
	鉄網モルタル下地等の防水処置	該当無し		
防火構造 延焼のおそれのある部分	構造耐力上主要な部分の柱、筋かい、土台	地面から1mの範囲で防腐・防蟻処理		
	構造方法	該当無し		
居室の内装	材料の種別	該当無し		
	壁の厚さ	該当無し		
居室の換気	補強筋	該当無し		
	補強筋種別	該当無し		
給排水衛生設備	屋根 (法第22条)	仕上げ	カラーベストコロニアル	
	外壁 (法第23条)	野地板	構造用合板12mm (特類)	
特定行政庁が条例規則で定める規定	軒裏 (令第108条)	防水紙	改質アスファルトルーフィング940	
		内装材 (令第20条の7)	仕上げ	窯業系サイディング18mm 通気
給排水衛生設備	換気設備 (令第20条の8)	内装材 (複合フローリング、集成材、ビニールクロス、石膏ボード、内装、収納ドア、洗面化粧台、キッチンセット、接着剤)	ケイカル板10mm	
		機械換気設備の構造	第3種機械換気設備	
給排水衛生設備	建築設備の構造強度 (令第129条の2の3)	天井裏等 (合板、構造用合板、収納内部、石こうボード)	全てF	
		昇降機以外の建築設備の構造方法	平成12建告第1388号および同左第5改正 (平成24国交告第1447号)	
給排水衛生設備	給水排水その他の配管設備 (令第129条の2の4)	給水給湯管材料	引込 : ステンレス、敷地内 : 耐衝撃硬質塩化ビニル管、住戸内 : 架橋ポリエチレン管	
		排水管材料	配置図に記載	
特定行政庁が条例規則で定める規定	法第40条	水栓	吐水口空間を有効に確保	
		法第41条	東京都建築安全条例	
			特に無し	

備 考	設計者	件 名		図面名称		図面番号
	級建築士事務所 建築設計事務所 級建築士事務所 ○○○知事登録 第○○○○○号 級建築士 ○○○登録 第○○○○○号 氏名○○ 太郎	(仮称) A邸 新築工事		仕様表		2
	検図	検図	検図	作図年月日	縮尺	
				2026.02.28	N.S	



1階 平面図 S:1/50



2階 平面図 S:1/50

注) 印は接合金物、印は面材壁倍率を示す

記号	倍率	仕様
W1	2.00	筋かい145x90シングル
W2	4.00	筋かい145x90ダブル
W3	2.50	構造用合板9mm(2.5)
W4	5.00	構造用合板9mm(2.5)両面
W5	6.20	構造用合板9mm(3.7)+構造用合板(2.5)
W6	6.50	構造用合板9mm(2.5)+筋かい145x90ダブル

耐力壁の両端の柱の土台にはM12アンカーボルトを設置
筋かいはBP2もしくは同等金物で施工のこと

柱頭
柱脚

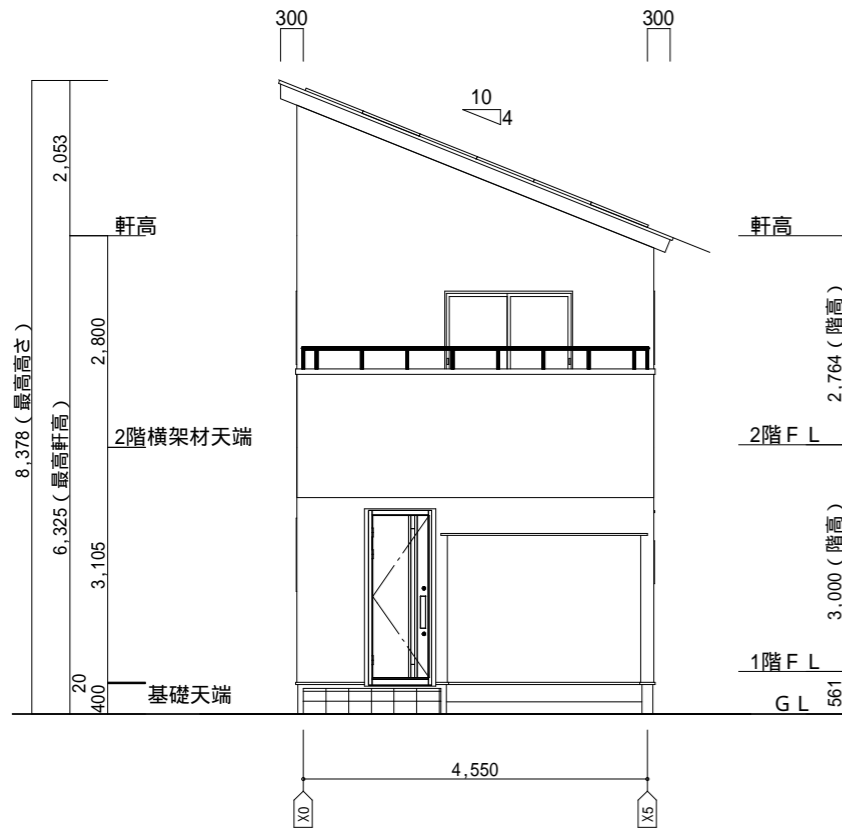
構造用合板は告示仕様(木造工事標準図参照)
2.5倍 N50@150
3.7倍 CN50@75
せっこうボード(準耐力壁)は木造工事標準図参照
0.9倍 GNF40@150

記号	倍率	面材高さ	横架材間	実倍率	面材種類
垂PB1	0.9	2400	2895	0.44	せっこうボード

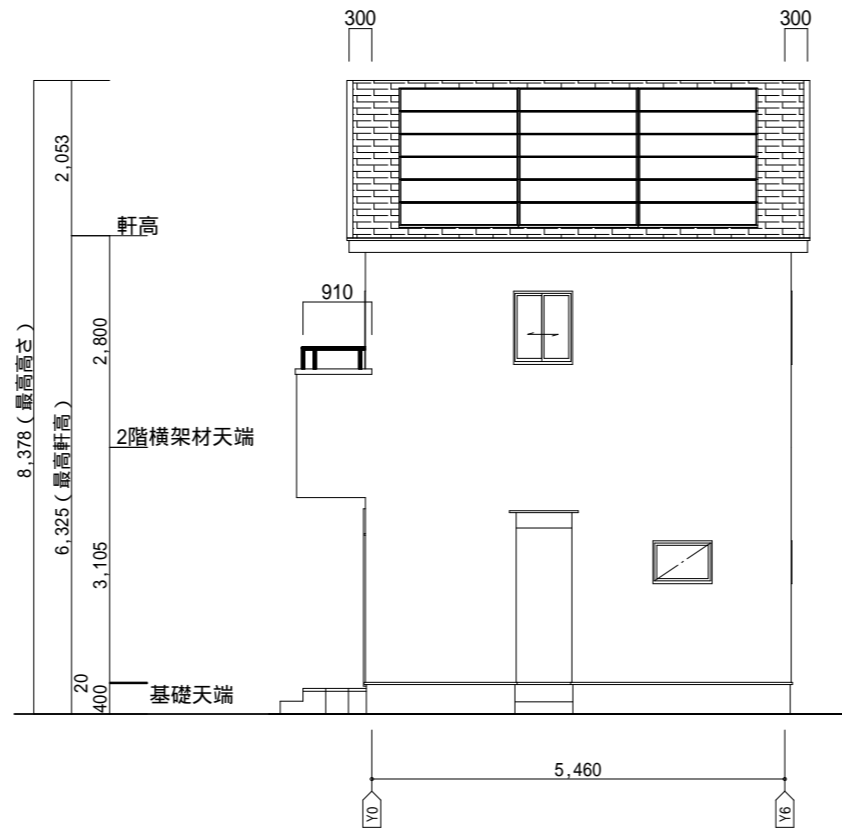
記号	倍率	面材高さ(垂れ壁+腰壁)	横架材間	実倍率	面材種類
垂PB2	0.9	400+0=400	2895	0.07	せっこうボード (壁量算定に算しない)

記号	表記	仕様	N	耐力	採用金物
(い)		短ほぞ差し、かすがい打ち	0.00	0.0	
(ろ)		長ほぞ差し込み栓打ち L字型金物	0.65	3.4	
(は)	V	V字型金物 T字型金物	1.00	5.1	山形プレート
(に)		羽子板ホルト 短冊金物	1.40	7.5	
(ほ)		羽子板ホルト+スクリュー釘50 短冊金物+スクリュー釘50	1.60	8.5	
(へ)	10	10KN用引き寄せ金物	1.80	10.0	ホルダ'コーナー
(と)	15	15KN用引き寄せ金物	2.80	15.0	ビスどめHD U 15kN
(ち)	20	20KN用引き寄せ金物	3.70	20.0	ビスどめHD U 20kN
(り)	25	25KN用引き寄せ金物	4.70	25.0	ビスどめHD U 25kN
	35	ビス止めホールダウンU 35KN	6.60	35.0	ビスどめHD U 35kN

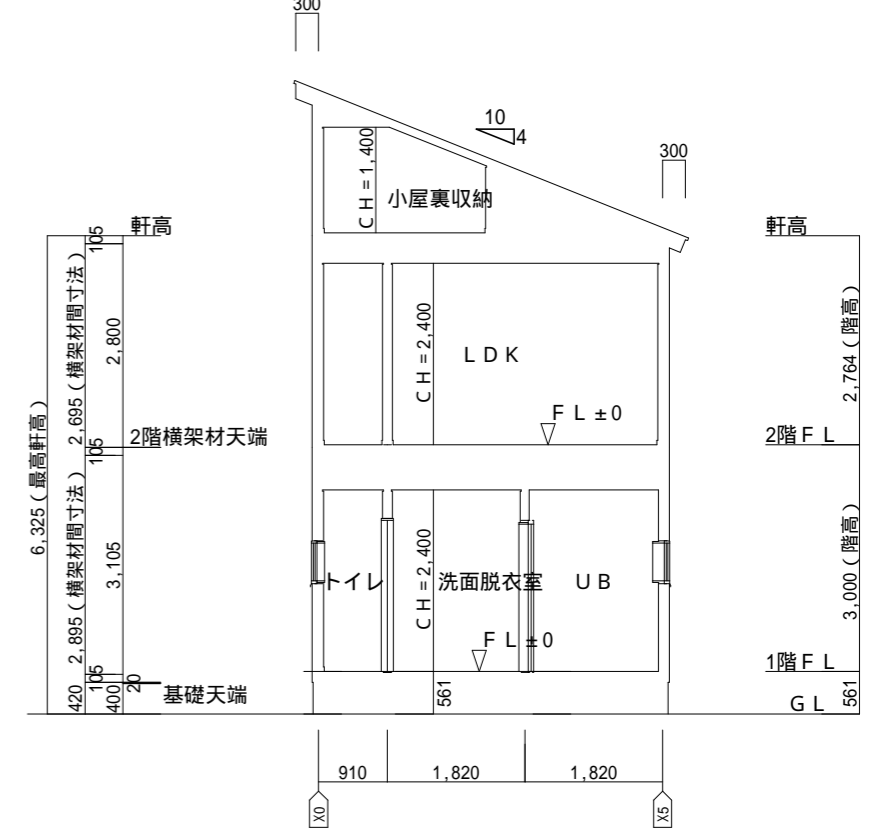
1階柱脚金物で15kN以上の金物は基礎に緊結すること
金物は柱頭柱脚同一金物とすること
1階柱頭・2階柱脚の金物がHDの場合、サイズが大きい方に合わせて施工すること



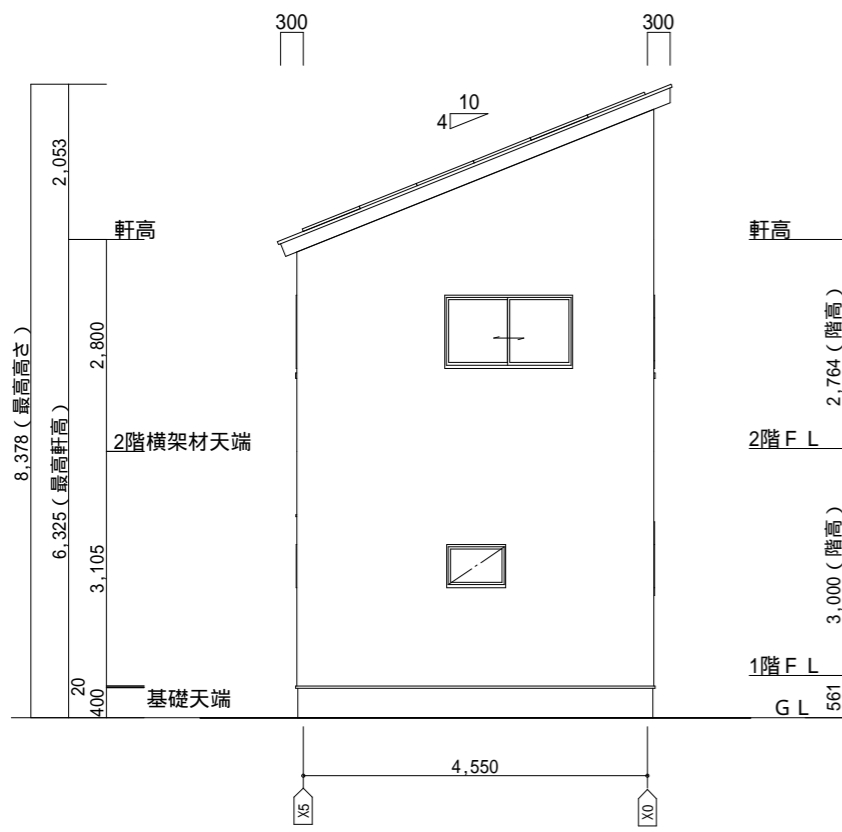
南側 立面図 S:1/100



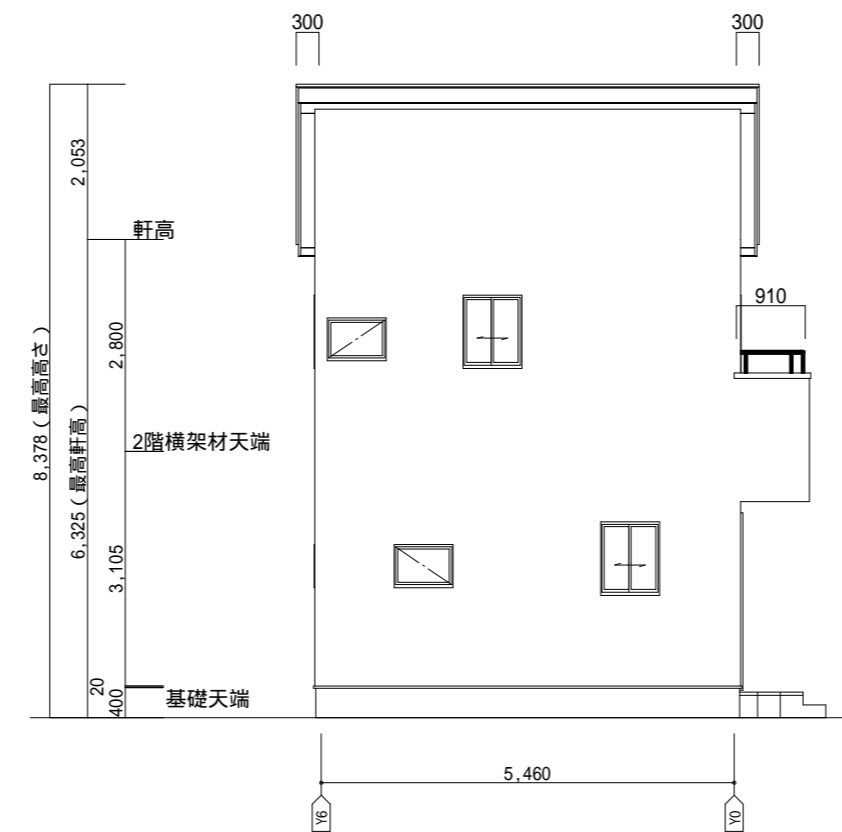
東側 立面図 S:1/100



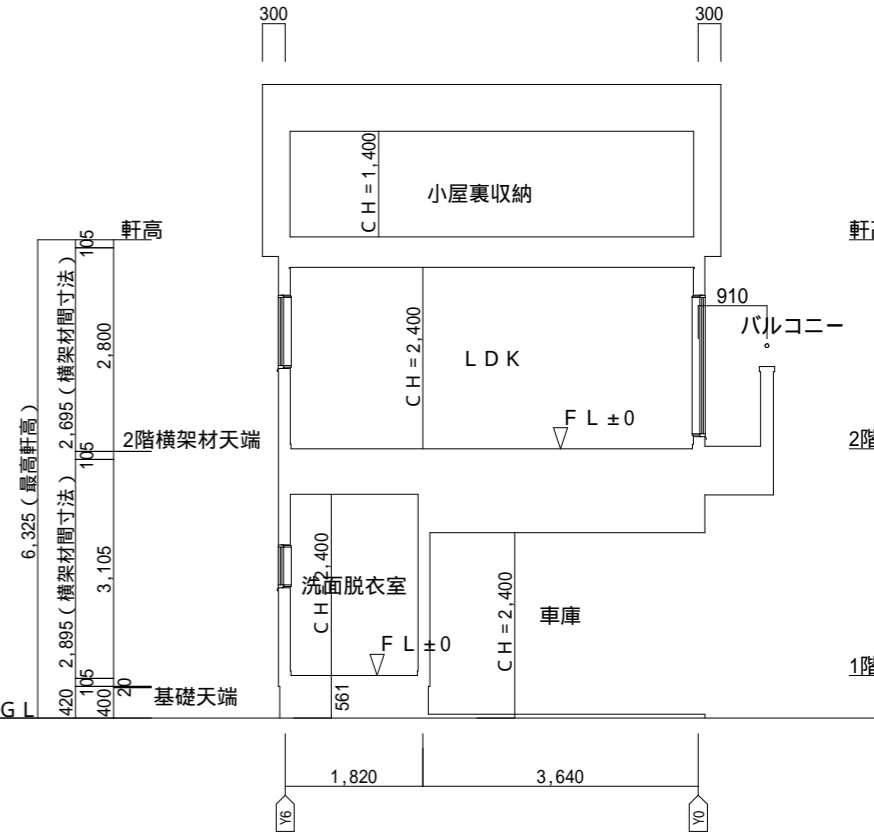
断面図(張間) S:1/100



北側 立面図 S:1/100

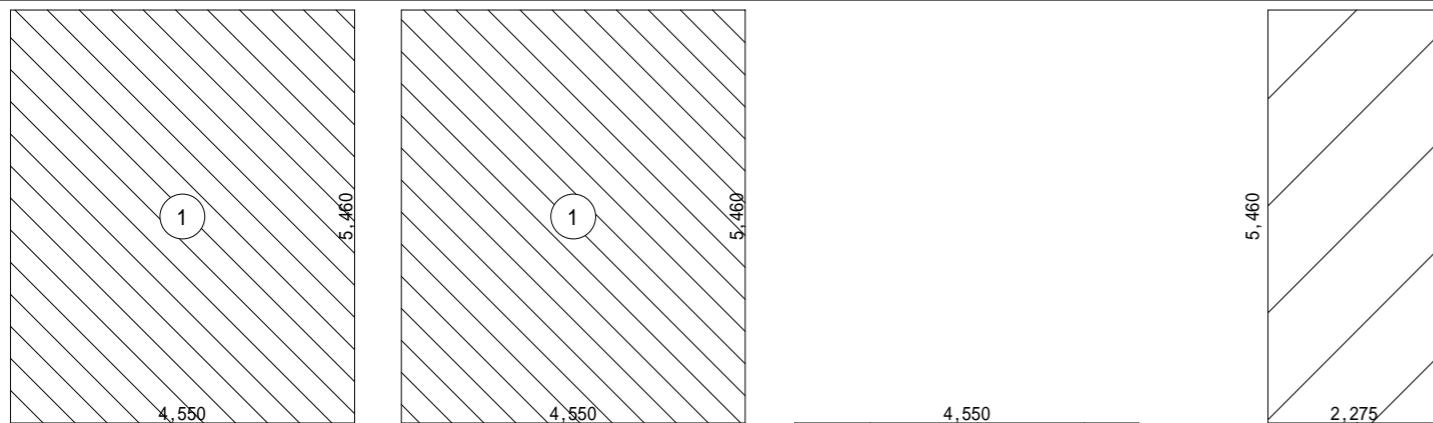


西側 立面図 S:1/100



断面図(桁行) S:1/100

備考	設計者	件名	図面名称		図面番号
	級建築士事務所 建築設計事務所 級建築士事務所 ○○○知事登録 第○○○○○号 級建築士 ○○○登録 第○○○○○号 氏名○○ 太郎	(仮称)A邸 新築工事	立面図・断面図		
		検図	検図	検図	作図年月日
					2026.02.28
					縮尺
					1/100



1階床面積算定図

2階床面積算定図

バルコニー面積算定図

小屋裏収納面積算定図

階	面積	小屋裏加算	バルコニー加算	壁量計算用面積
2	① 4.550 × 5.460 24.85	8.29		33.14
1	① 4.550 × 5.460 24.85	8.29	1.66	34.80

面積	係数	加算床面積
4.15	0.4	1.66

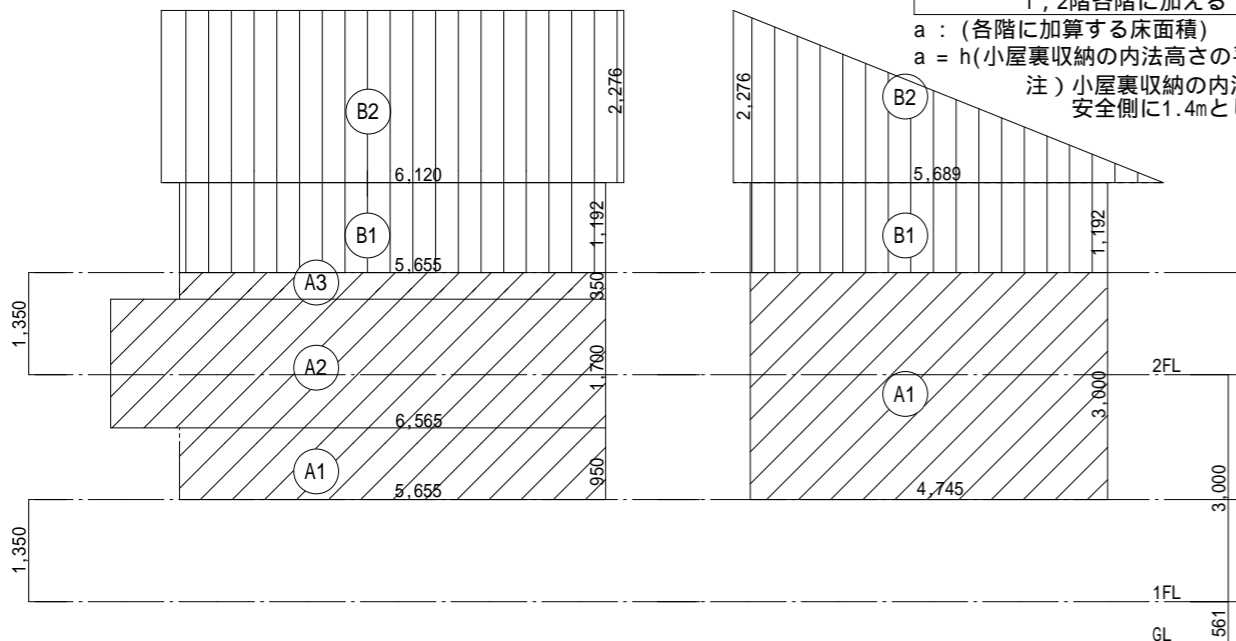
1階に加える

面積 A	高さ h	加算床面積
12.43	1.4	8.29

1, 2階各階に加える

a : (各階に加算する床面積)
 $a = h \times (\text{小屋裏収納の内法高さの平均値}) / 2.1 \times A$ (小屋裏収納の床面積)
 注) 小屋裏収納の内法高さの平均値は1.4m以下だが安全側に1.4mとして検討している。

注) 屋根寸法は安全側に仕上げ外面にて包絡する



X方向(東面)見付面積算定図

Y方向(南面)見付面積算定図

方向	階	面積	計	累計
X	2	① 5.655 × 1.192 6.741	20.67	20.67
		② 6.120 × 2.276 13.929		
	1	① 5.655 × 0.950 5.372	18.52	39.19
	② 6.565 × 1.700 11.161			
	③ 5.655 × 0.350 1.979			
Y	2	① 4.745 × 1.192 5.656	12.13	12.13
		② 5.689 × 2.276 ÷ 2.0 6.474		
	1	① 4.745 × 3.000 14.235	14.24	26.37

階	方向	床面積	乗ずる数値	必要壁量
2	X	33.14	0.240	7.96
	Y			
1	X	34.80	0.420	14.62
	Y			

階	方向	見付面積	乗ずる数値	必要壁量
2	X	20.67	0.500	10.34
	Y	12.13		6.07
1	X	39.19		19.60
	Y	26.37		13.18

印数値は、表計算ツール(多機能版)による

階	方向	記号	倍率 x	長さ x	個所 =	壁量	合計
2	X	W3	2.50	0.910	6	13.650	17.29
		W1	2.00	0.910	2	3.640	
	Y	W3	2.50	0.910	7	15.925	
		W1	2.00	0.910	2	3.640	
1	X	W6	6.50	0.910	1	5.915	30.17
		W5	6.20	0.758	1	4.699	
		W3	2.50	0.910	7	15.925	
		W2	4.00	0.910	1	3.640	
	Y	W4	5.00	0.910	3	13.650	
		W3	2.50	0.910	7	15.925	
		W3	2.50	1.820	1	4.550	

階	記号	倍率	開口部高	下地貼高	横架材間内法	実高	準耐力壁倍率
1	準PB1	0.90	-	2400.0	2895.0	2400.0	0.44

壁倍率 = 面材の基準倍率 × 0.6 × 面材の高さの合計 / 横架材相互間の垂直距離

階	方向	記号	倍率 x	長さ x	個所 =	壁量	合計
1	X	準PB1	0.44	0.910	2	0.800	0.80

階	方向	必要壁量 A	準耐力壁等壁量 B	B/A	判定
2	X	10.34	0.00	-	OK
	Y	7.96	0.00	-	OK
1	X	19.60	0.80	0.04	OK
	Y	14.62	0.00	-	OK

階	方向	壁量	準耐力壁等壁量	存在壁量
2	X	17.29	0.00	17.29
	Y	24.11	0.00	24.11
1	X	30.17	0.80	30.97
	Y	34.12	0.00	34.12

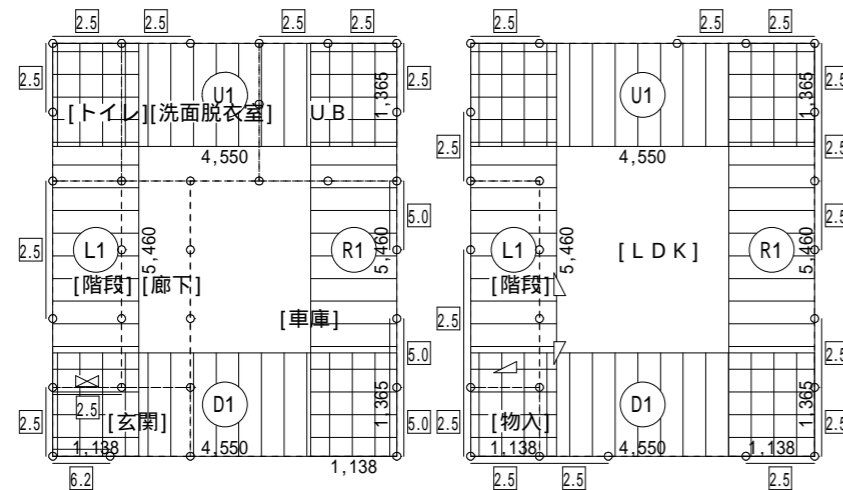
階	方向	存在壁量	判定	必要壁量(採用値は 印)	
				地震力	風圧力
2	X	17.29	> OK	7.96	10.34
	Y	24.11	> OK	7.96	6.07
1	X	30.97	> OK	14.62	19.60
	Y	34.12	> OK	14.62	13.1

試設計においては、面積は切り上げ、また高さについては平均高さではなく、最高高さにより安全側で設計している。

備考	設計者 級建築士事務所 建築設計事務所 級建築士事務所 ○○○知事登録 第○○○○○号 級建築士 ○○○登録 第○○○○○号 氏名○○ 太郎	件名 (仮称)A邸 新築工事	図面名称 壁量計算	図面番号 5
		検図	作図年月日 2026.02.28	縮尺 N.S

階	方向	面積	計
2	X	上 (U1) 4.550 × 1.365 6.210750	6.22
		下 (D1) 4.550 × 1.365 6.210750	
	Y	左 (L1) 1.138 × 5.460 6.213480	6.22
		右 (R1) 1.138 × 5.460 6.213480	
1	X	上 (U1) 4.550 × 1.365 6.210750	6.22
		下 (D1) 4.550 × 1.365 6.210750	
	Y	左 (L1) 1.138 × 5.460 6.213480	6.22
		右 (R1) 1.138 × 5.460 6.213480	

階	方向	床面積	小屋裏収納	合計床面積	乗ずる数値	必要壁量
2	X	上 6.22	2.08	8.30	0.240	1.992
		下 6.22	2.08	8.30	0.240	1.992
	Y	左 6.22	4.15	10.37	0.240	2.489
		右 6.22	0.00	6.22	0.240	1.493
1	X	上 6.22	2.08	8.30	0.420	3.486
		下 6.22	3.74	9.96	0.420	4.184
	Y	左 6.22	4.57	10.79	0.420	4.532
		右 6.22	0.42	6.64	0.420	2.789



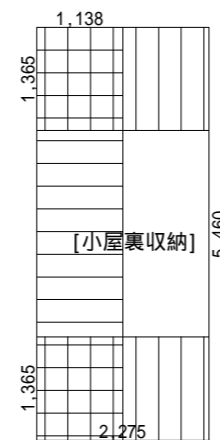
1階壁釣り合い算定図

2階壁釣り合い算定図

注) □内数字は壁毎の合計壁倍率を示す。

小屋裏収納の面積配分

小屋裏収納は、各階上、左、下に配分 バルコニーは、1階左、下、右に配分 単位 m ²				
階	方向	バルコニー	小屋裏収納	小屋裏収納面積
2	X	上 0.00	2.08	2.08
		下 0.00	2.08	2.08
	Y	左 0.00	4.15	4.15
		右 0.00	0.00	0.00
1	X	上 0.00	2.08	2.08
		下 1.66	2.08	3.74
	Y	左 0.42	4.15	4.57
		右 0.42	0.00	0.42



小屋裏収納 壁釣り合い算定図

階	方向	記号	倍率 x	長さ	x個所 =	壁量	合計	
2	X	上 W3	2.50	0.910	3	6.825	6.825	
		下 W3	2.50	0.910	3	6.825		
		W1	2.00	0.910	1	1.820		
	Y	左 W3	2.50	0.910	2	4.550	12.740	
		W3	2.50	1.820	1	4.550		
		W1	2.00	0.910	2	3.640		
1	X	上 W3	2.50	0.910	4	9.100	9.100	
		下 W6	6.50	0.910	1	5.915		
	Y	左	W5	6.20	0.758	1	4.699	9.100
			W3	2.50	1.820	1	4.550	
		右	W3	2.50	0.910	2	4.550	
			W4	5.00	0.910	3	13.650	
W3	2.50	0.910	1	2.275				

壁釣り合い判定表

階	方向	必要壁量	存在壁量	壁量充足率	壁率比	判定
2	X	上 1.992	6.825	3.426	0.789	OK
		下 1.992	8.645	4.339		
	Y	左 2.489	12.740	5.118	0.671	OK
		右 1.493	11.375	7.618		
1	X	上 3.486	9.100	2.610	0.971	OK
		下 4.184	10.614	2.536		
	Y	左 4.532	9.100	2.007	0.351	OK
		右 2.789	15.925	5.709		

(壁率比0.5以下であるが充足率 > 1.0故OK)

判定基準

- ・壁量充足率 > 1.0、壁率比 0.5
- ・壁量充足率 = 存在壁量 / 必要壁量
- ・壁率比 = 壁量充足率の小さい側 / 壁量充足率の大きい側

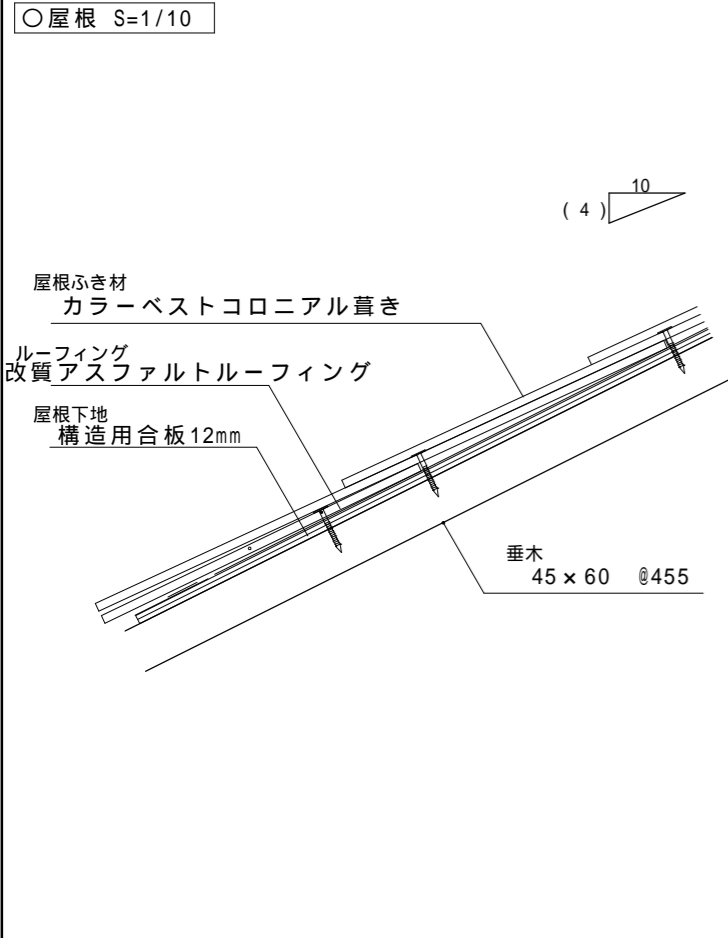
柱接合部判定表 1、2階共横架材上端間高さ 3.2mより、Hi=2.7mとする。 N値が5.6超の場合、耐力はN×5.3kNとする													
階	柱位置		出隅	Hi 2.7	計算式				N	金物			
	X	Y			X方向		Y方向			柱頭	柱脚		
2	0	0	○	1.0	2.50×0.8-0.4	1.60	1.0	2.50×0.8-0.4	1.60	1.60	10(ほ)	10(ほ)	
	1	0	×	1.0	0.00×0.5-0.6	-0.60	1.0	0.00×0.5-0.6	-0.60	-0.60	V(い)	V(い)	
	2	0	×	1.0	2.50×0.5-0.6	0.65	1.0	0.00×0.5-0.6	-0.60	0.65	V(ろ)	V(ろ)	
	4	0	×	1.0	2.50×0.5-0.6	0.65	1.0	0.00×0.5-0.6	-0.60	0.65	V(ろ)	V(ろ)	
	5	0	○	1.0	2.50×0.8-0.4	1.60	1.0	2.50×0.8-0.4	1.60	1.60	10(ほ)	10(ほ)	
	0	1	×	1.0	(2.00-0.50)×0.5-0.6	0.15	1.0	0.00×0.5-0.6	-0.60	0.15	V(ろ)	V(ろ)	
	1	1	×	1.0	(2.00+0.50)×0.5-0.6	0.65	1.0	(2.00-0.50)×0.5-0.6	0.15	0.65	V(ろ)	V(ろ)	
	5	1	×	1.0	0.00×0.5-0.6	-0.60	1.0	0.00×0.5-0.6	-0.60	-0.60	V(い)	V(い)	
	1	2	×	1.0	0.00×0.5-0.6	-0.60	1.0	(0.00+1.00)×0.5-0.6	-0.10	-0.10	V(い)	V(い)	
	5	2	×	1.0	0.00×0.5-0.6	-0.60	1.0	2.50×0.5-0.6	0.65	0.65	V(ろ)	V(ろ)	
	0	3	×	1.0	0.00×0.5-0.6	-0.60	1.0	2.50×0.5-0.6	0.65	0.65	V(ろ)	V(ろ)	
	1	3	×	1.0	0.00×0.5-0.6	-0.60	1.0	(2.00-0.50)×0.5-0.6	0.15	0.15	V(ろ)	V(ろ)	
	5	3	×	1.0	0.00×0.5-0.6	-0.60	1.0	2.50×0.5-0.6	0.65	0.65	V(ろ)	V(ろ)	
	0	4	×	1.0	(2.00+0.50)×0.5-0.6	0.65	1.0	2.50×0.5-0.6	0.65	0.65	V(ろ)	V(ろ)	
	1	4	×	1.0	(2.00-0.50)×0.5-0.6	0.15	1.0	0.00×0.5-0.6	-0.60	0.15	V(ろ)	V(ろ)	
	5	4	×	1.0	0.00×0.5-0.6	-0.60	1.0	0.00×0.5-0.6	-0.60	-0.60	V(い)	V(い)	
	0	5	×	1.0	0.00×0.5-0.6	-0.60	1.0	2.50×0.5-0.6	0.65	0.65	V(ろ)	V(ろ)	
	5	5	×	1.0	0.00×0.5-0.6	-0.60	1.0	0.00×0.5-0.6	-0.60	-0.60	V(い)	V(い)	
	0	6	○	1.0	2.50×0.8-0.4	1.60	1.0	0.00×0.8-0.4	-0.40	1.60	10(ほ)	10(ほ)	
	1	6	×	1.0	2.50×0.5-0.6	0.65	1.0	0.00×0.5-0.6	-0.60	0.65	V(ろ)	V(ろ)	
	3	6	×	1.0	2.50×0.5-0.6	0.65	1.0	0.00×0.5-0.6	-0.60	0.65	V(ろ)	V(ろ)	
	4	6	×	1.0	0.00×0.5-0.6	-0.60	1.0	0.00×0.5-0.6	-0.60	-0.60	V(い)	V(い)	
	5	6	○	1.0	2.50×0.8-0.4	1.60	1.0	2.50×0.8-0.4	1.60	1.60	10(ほ)	10(ほ)	
	1	0	0	○	1.0	6.20×0.8+2.50×0.8-1.0	5.96	1.0	2.50×0.8+2.50×0.8-1.0	3.00	5.96	35	35
		0.8	0	×	1.0	6.20×0.5-1.6	1.50	1.0	0.00×0.5-1.6	-1.60	1.50	10(ほ)	10(ほ)
		2	0		1.0	0.00×0.5+2.50×0.5+0.42-1.6	0.07	1.0	2.50×0.5+0.00×0.5-1.6	-0.35	0.07	V(ろ)	V(ろ)
				×	1.0	[X4Y0] 2.50×0.5×0.91/2.73	0.42	1.0					
		5	0		1.0	0.00×0.8+2.50×0.8+0.83-1.0	1.83	1.0	5.00×0.8+2.50×0.8-1.0	5.00	5.00	35	35
				○	1.0	[X4Y0] 2.50×0.5×1.82/2.73	0.83	1.0					
		0	1	×	1.0	6.50×0.5+(2.00-0.50)×0.5-1.6	2.40	1.0	2.50×0.5+0.00×0.5-1.6	-0.35	2.40	15(と)	15(と)
1		1	×	1.0	6.50×0.5+(2.00+0.50)×0.5-1.6	2.90	1.0	0.00×0.5+(2.00-0.50)×0.5-1.6	-0.85	2.90	20(ち)	20(ち)	
2		1	×	1.0	0.00×0.5-1.6	-1.60	1.0	0.00×0.5-1.6	-1.60	-1.60	V(い)	V(い)	
5		1	×	1.0	0.00×0.5+0.00×0.5-1.6	-1.60	1.0	0.00×0.5+0.00×0.5-1.6	-1.60	-1.60	V(い)	V(い)	
0		2		1.0	0.00×0.5-1.6	-1.60	1.0	2.50×0.5+0.63-1.6	0.28	0.28	V(ろ)	V(ろ)	
			×	1.0	[X0Y3] 2.50×0.5×0.91/1.82	0.63	1.0						
1		2	×	1.0	0.00×0.5+0.00×0.5-1.6	-1.60	1.0	0.00×0.5+(0.00+1.00)×0.5-1.6	-1.10	-1.10	V(い)	V(い)	
2		2	×	1.0	0.00×0.5-1.6	-1.60	1.0	0.00×0.5-1.6	-1.60	-1.60	V(い)	V(い)	
5		2	×	1.0	0.00×0.5+0.00×0.5-1.6	-1.60	1.0	5.00×0.5+2.50×0.5-1.6	2.15	2.15	15(と)	15(と)	
1		3	×	1.0	0.00×0.5+0.00×0.5-1.6	-1.60	1.0	0.00×0.5+(2.00-0.50)×0.5-1.6	-0.85	-0.85	V(い)	V(い)	
2		3	×	1.0	0.00×0.5-1.6	-1.60	1.0	0.00×0.5-1.6	-1.60	-1.60	V(い)	V(い)	
5		3	×	1.0	0.00×0.5+0.00×0.5-1.6	-1.60	1.0	5.00×0.5+2.50×0.5-1.6	2.15	2.15	15(と)	15(と)	
0		4	×	1.0	4.00×0.5+(2.00+0.50)×0.5-1.6	1.65	1.0	2.50×0.5+2.50×0.5+0.63-1.6	1.53	1.65	10(へ)	10(へ)	
			×	1.0	[X0Y3] 2.50×0.5×0.91/1.82	0.63	1.0						
1		4	×	1.0	4.00×0.5+(2.00-0.50)×0.5-1.6	1.15	1.0	0.00×0.5+0.00×0.5-1.6	-1.60	1.15	10(に)	10(に)	
2		4	×	1.0	2.50×0.5-1.6	-0.35	1.0	2.50×0.5-1.6	-0.35	-0.35	V(い)	V(い)	
3		4	×	1.0	0.00×0.5-1.6	-1.60	1.0	0.00×0.5-1.6	-1.60	-1.60	V(い)	V(い)	
4		4	×	1.0	0.00×0.5-1.6	-1.60	1.0	0.00×0.5-1.6	-1.60	-1.60	V(い)	V(い)	
5		4	×	1.0	2.50×0.5+0.00×0.5-1.6	-0.35	1.0	5.00×0.5+0.00×0.5-1.6	0.90	0.90	V(は)	V(は)	
0		5	×	1.0	0.00×0.5+0.00×0.5-1.6	-1.60	1.0	2.50×0.5+2.50×0.5-1.6	0.90	0.90	V(は)	V(は)	
5		5	×	1.0	0.00×0.5+0.00×0.5-1.6	-1.60	1.0	2.50×0.5+0.00×0.5-1.6	-0.35	-0.35	V(い)	V(い)	
3	5.1	×	1.0	0.00×0.5-1.6	-1.60	1.0	0.00×0.5-1.6	-1.60	-1.60	V(い)	V(い)		
0	6	○	1.0	2.50×0.8+2.50×0.8-1.0	3.00	1.0	2.50×0.8+0.00×0.8-1.0	1.00	3.00	20(ち)	20(ち)		
1	6	×	1.0	0.00×0.5+2.50×0.5-1.6	-0.35	1.0	0.00×0.5+0.00×0.5-1.6	-1.60	-0.35	V(い)	V(い)		
2	6	×	1.0	2.50×0.5-1.6	-0.35	1.0	0.00×0.5-1.6	-1.60	-0.35	V(い)	V(い)		
3	6	×	1.0	2.50×0.5+2.50×0.5-1.6	0.90	1.0	0.00×0.5+0.00×0.5-1.6	-1.60	0.90	V(は)	V(は)		
4	6	×	1.0	0.00×0.5+0.00×0.5-1.6	-1.60	1.0	0.00×0.5+0.00×0.5-1.6	-1.60	-1.60	V(い)	V(い)		
5	6	○	1.0	2.50×0.8+2.50×0.8-1.0	3.00	1.0	2.50×0.8+2.50×0.8-1.0	3.00	3.00	20(ち)	20(ち)		

接合部凡例					
記号	表記	仕様	N	耐力	採用金物
(い)		短ほぞ差し、かすがい打ち	0.00	0.0	
(ろ)		長ほぞ差し込み栓打ち	0.65	3.4	
(は)	V	L型金物 V型金物 T型金物	1.00	5.1	山形プレート
(に)		羽子板ボルト 短冊金物	1.40	7.5	
(ほ)		羽子板ボルト+スクリュー釘50 短冊金物+スクリュー釘50	1.60	8.5	
(へ)	10	10kN用引き寄せ金物	1.80	10.0	ホルダークォーナ
(と)	15	15kN用引き寄せ金物	2.80	15.0	ビスどめHD U 15kN
(ち)	20	20kN用引き寄せ金物	3.70	20.0	ビスどめHD U 20kN
(り)	25	25kN用引き寄せ金物	4.70	25.0	ビスどめHD U 25kN
	35	ビス止めホルダダウンU 35kN	6.60	35.0	ビスどめHD U 35kN

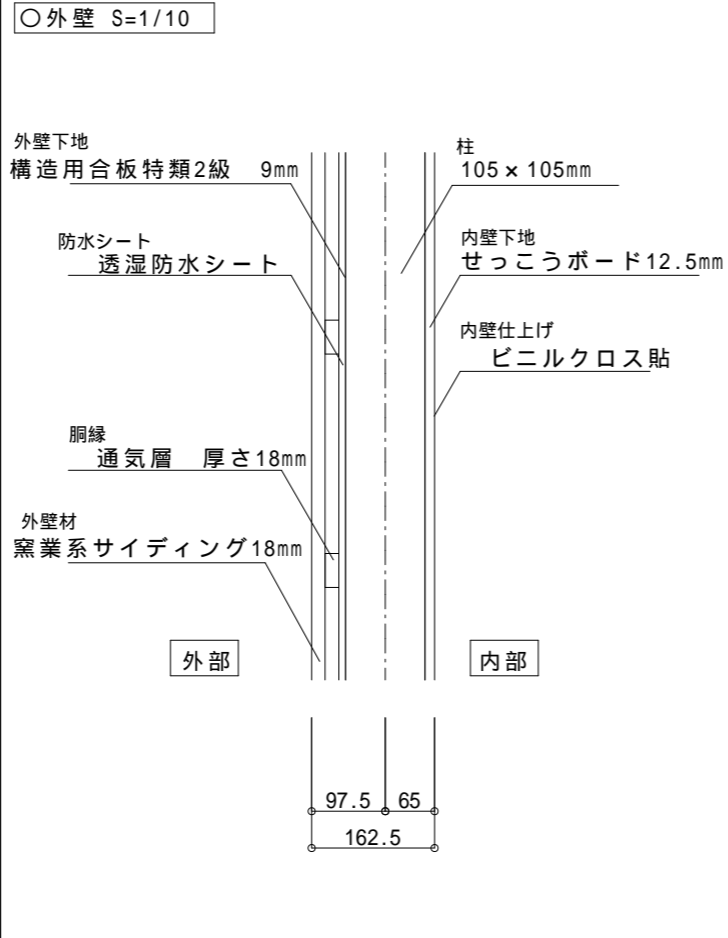
1階柱脚の15kN以上の接合金物は基礎と直接緊結すること

備考	設計者	件名			図面名称		図面番号
	級建築士事務所 建築設計事務所 級建築士事務所 ○○○知事登録 第○○○○○号 級建築士 ○○○登録 第○○○○○号 氏名○○ 太郎	(仮称) A邸 新築工事			N値計算		
		検図	検図	検図	作図年月日	縮尺	
					2026.02.28	N.S	

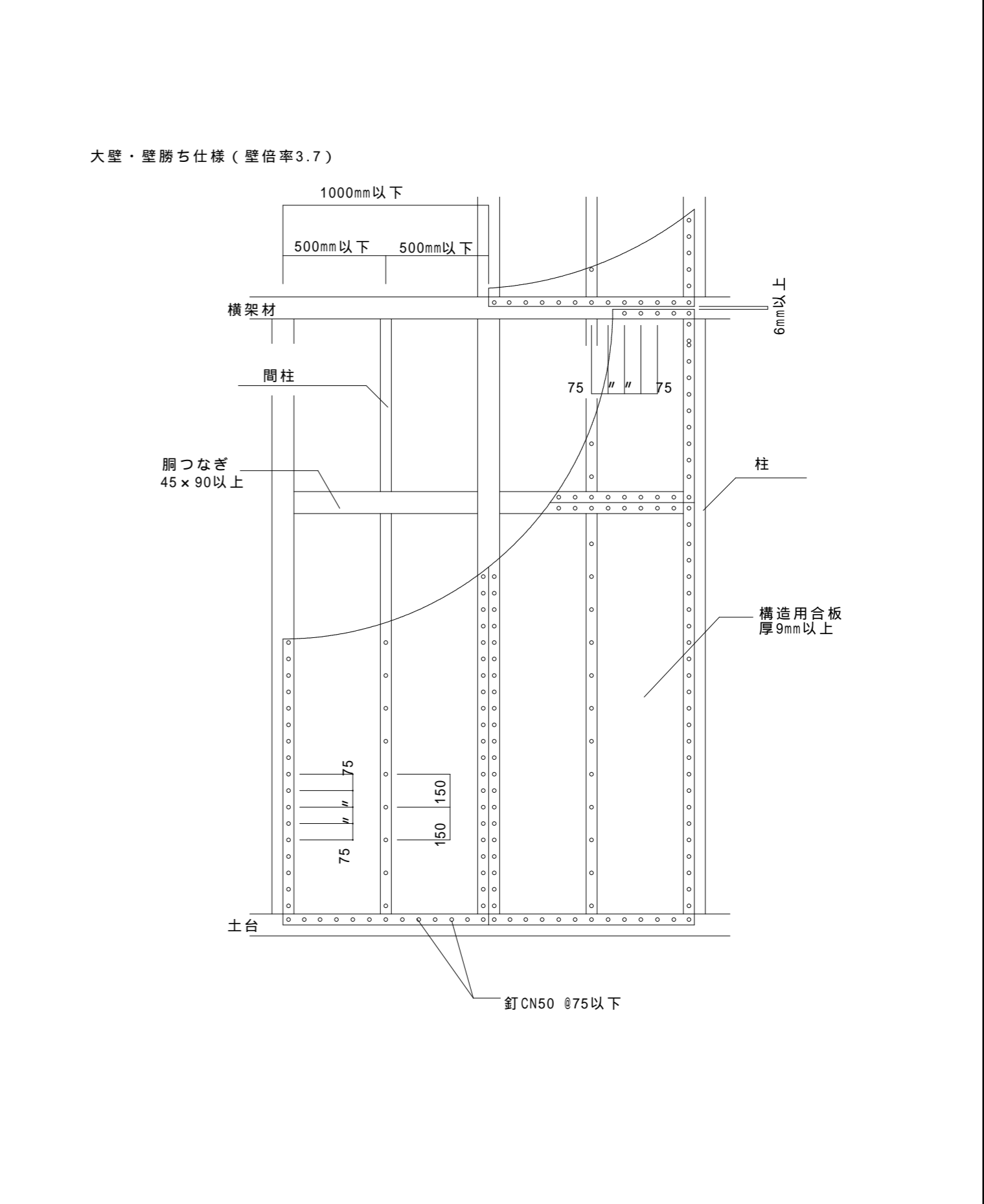
1. 耐火構造等の構造詳細図 (屋根)



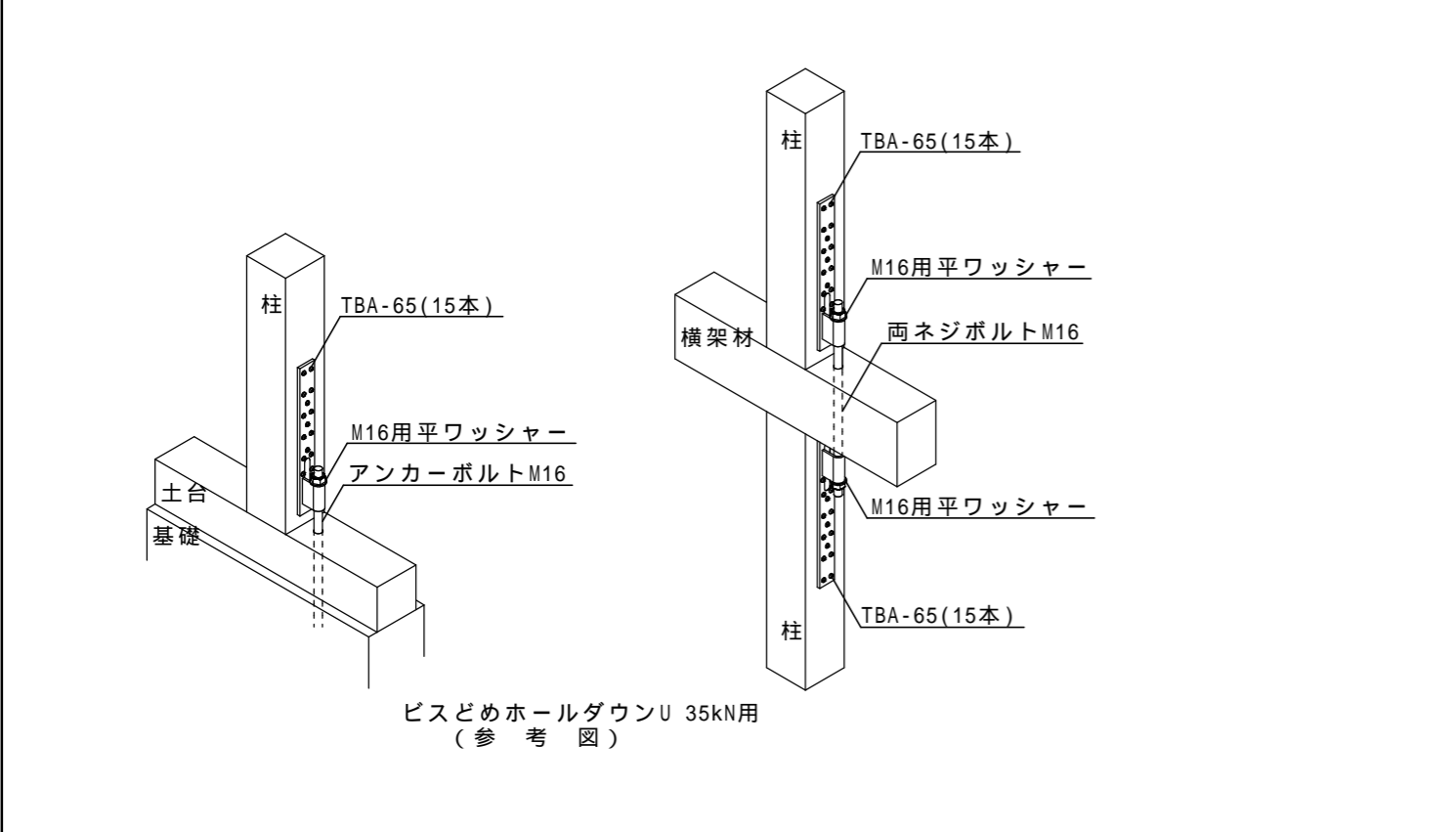
2. 耐火構造等の構造詳細図 (外壁)



4. 高倍率耐震壁 (壁倍率3.7) 詳細図 N.S



3. ビスどめホルダウンU 35kN用 (参考図) S=1/20



備考	設計者	件名	図面名称		図面番号
	級建築士事務所 建築設計事務所 級建築士事務所 ○○○知事登録 第○○○○○号 級建築士 ○○○登録 第○○○○○号 氏名○○ 太郎	(仮称) A邸 新築工事	構造詳細図		
		検図	検図	検図	作図年月日 2026.02.28 縮尺 1/10 1/20

木造工事標準図 (1)

共通事項

・本標準図は木造の建築物又は木造と組積造その他の構造とを併用する建築物のうち、在来軸組工法による木造部分の構造耐力上主要な部分の設計及び工事に適用する。

・本標準図に記載されていない仕様は特記による。

1. 鉄筋加工

以下において、dは異形棒鋼の呼び名に用いた数値とする。

(1) 鉄筋末端部の折曲げの形状

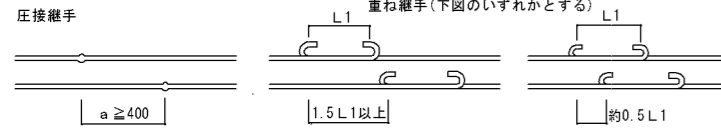
折曲げ角度	180°	135°	90°	折曲げ角度90°はスラブ筋、壁筋の末端部又はスラブと同時に打込むT型及びL形梁のキャップタイにのみ用いる。
図				
鉄筋の余長	4d以上	6d以上 (*4d以上)	8d以上 (*4d以上)	
折曲げ内法寸法Rは、SD295、SD345のD16以下は、3d以上、D19以上は、4d以上、SD390は、5d以上とする。				
	*片持ちスラブ上端筋の先端			

(2) 鉄筋中間部の折曲げの形状 鉄筋の折曲げ角度90°以下

図	鉄筋の使用箇所による呼称	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折曲げ内法寸法(R)
	帯筋 あばら筋 スライバ筋	SD295 SD345	D16以下 D19以上	3d以上 4d以上
	上記以外の鉄筋	SD295 SD345 SD390	D16以下 D19~D38 D38以下	4d以上 5d以上

(3) 鉄筋の継手

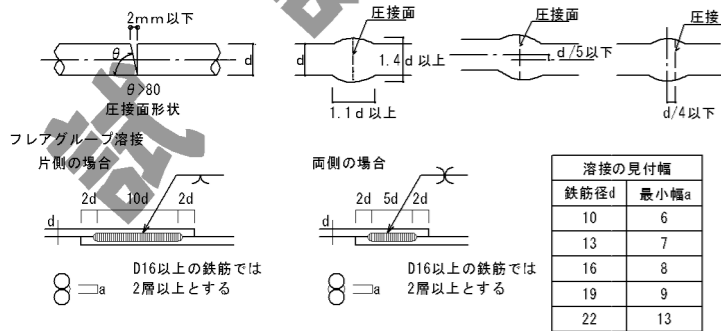
1. 末端のフックは、定着及び重ね継手の長さに含まない。
2. 継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする。
3. 直径の異なる鉄筋の重ね継手長さは、細い方の鉄筋の継手長さとする。
4. D29以上の異形鉄筋は、原則として、重ね継手としてはならない。
5. 鉄筋径の差が7mmを超える場合は、圧接としてはならない。



鉄筋の重ね継手長さL1

重ね継手	重ね継手の長さ(L1)	鉄筋の種類	設計基準強度Fcの範囲 (N/mm ²)		
			18	21	24~27
	L1	SD295	45d	40d	40d
		SD345	50d	45d	40d
		SD390	50d	45d	45d
	L1	SD295	40d	40d	40d
		SD345	40d	40d	40d
		SD390	40d	40d	40d
	0.2L1かつ150mm以下	SD295	45d	40d	40d
		SD345	50d	45d	40d
		SD390	50d	45d	45d

ガス圧接形状 (平成12年建設省告示1463号下図の底か、折れ曲がり、焼き割れ、へこみ、垂れ下がり及び内部欠損がないもの)

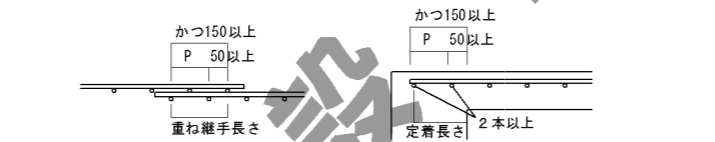


(4) 鉄筋の定着

普通、軽量コンクリートの設計基準強度の範囲 (N/mm ²)	鉄筋の種類	定着の長さ		
		一般 (L2)	下端筋 (L3)	
18以下	SD295	40d又は30dフックつき	小梁※2	10dかつ(20d) ^{※3} 150mm以上
	SD345		スラブ	
21	SD295	35d又は25dフックつき	小梁※2	10dかつ(20d) ^{※3} 150mm以上
	SD345		スラブ	
24~27	SD295	35d又は25dフックつき	小梁※2	10dかつ(20d) ^{※3} 150mm以上
	SD345		スラブ	
24~27	SD295	35d又は25dフックつき	小梁※2	10dかつ(20d) ^{※3} 150mm以上
	SD390		スラブ	

※1 軽量コンクリートの場合は10d以上加算した定着長さとする。
 ※2 基礎小梁では下端筋の定着をL2とする。
 ※3 ()内は片持ちスラブの場合を示す。

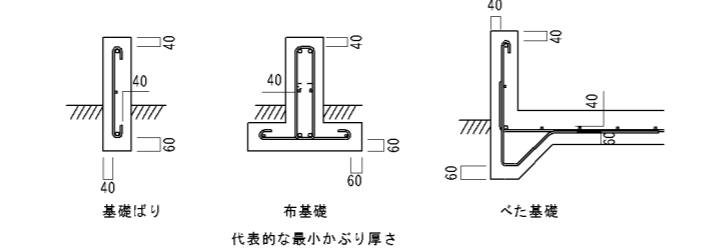
(5) 溶接金網の継手および定着



(6) かぶり厚さ (単位:mm)

部位	設計かぶり厚さ(mm)		最小かぶり厚さ(mm)
	スラブ 非耐力壁	屋外	
土に接しない部分	屋外	30	20
	屋内	40	30 (20)
土に接する部分	柱・はり 耐力壁	屋外	40
	擁壁	屋外	50
土に接する部分	柱・はり・スラブ・壁	基礎・擁壁	50
	基礎・擁壁	基礎・擁壁	70

(注) (1) 軽量コンクリートの場合は、10mm増しの値とする。
 (2) ()内は仕上げがある場合。



(7) 鉄筋のあき

丸網では径、異形鉄筋では呼び名に用いた数値1.5d以上
 粗骨材の最大寸法の1.25倍以上かつ25以上

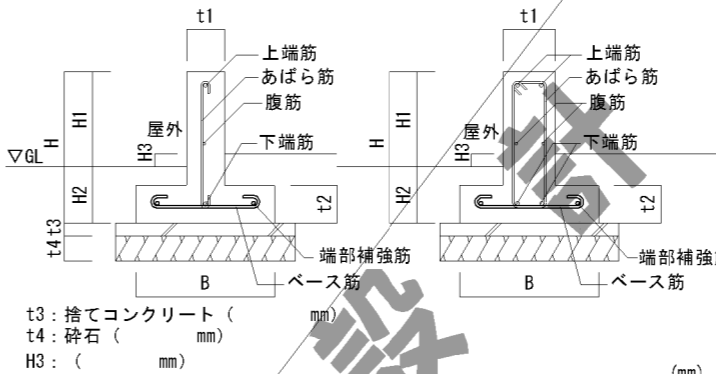


2. 基礎

床の高さは、直下の地面からその床の上面まで450mm以上とすること。
 ただし、床下をコンクリート、たまたぎその他これらに類する材料で覆う場合及び当該最下階の居室の床の構造が、地面から発生する水蒸気によって腐食しないものとして、国土交通大臣の認定を受けたものである場合においてはこの限りでない。
 ・鉄筋のかぶり厚さは上部・側面とも40mm以上とする。下部は60mm以上とする。
 ・腹筋は腹筋は300mm間隔でD10を配筋する。
 ・木造の土台の下は連続した立上り部分とすること。
 ・基礎の根入れ深さは凍結深度よりも深いものとする。その他凍上を防止するための有効な措置を講ずること。

(1) 布基礎

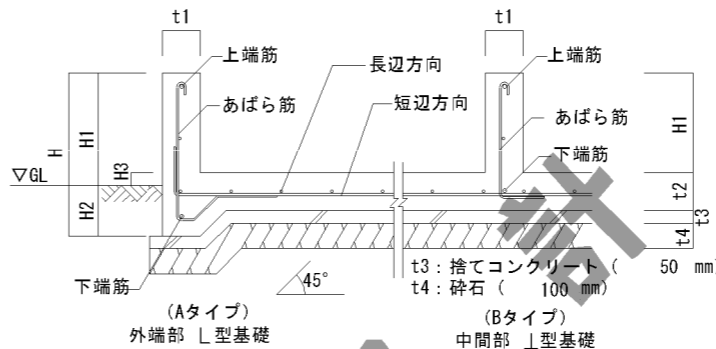
- ・根入れの深さにあつては240mm以上、底盤の厚さにあつては150mm以上とすること。
- ・底盤の幅は、地盤の長期許容応力度以下の接地圧となる幅Bとすること。
- ・底盤の主筋の先端を180°フックとした場合は、鉄筋のかぶり厚さを確保するために、底盤の厚みを170mm以上とすること。



符号	説明
t1	梁せい H
H1	立上り部
H2	上端筋
H3	下端筋
H4	あばら筋
B	基礎幅
H	基礎高
H2	基礎高
H3	基礎高
H4	基礎高

(2) べた基礎

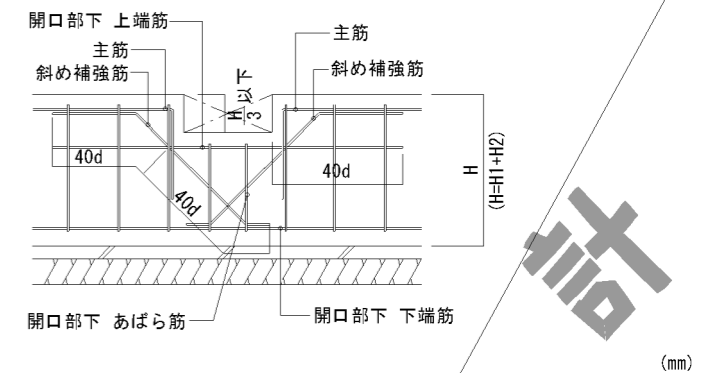
- ・立上り部分の高さは地上部分で300mm以上、厚さは120mm以上とし、基礎の底盤の厚さは120mm以上とすること。
- ・根入れ深さは、基礎の底部を雨水等の影響を受けるおそれのない密実で良好な地盤に達したものとした場合を除き、120mm以上とすること。



基礎梁形状		単位(mm)					
部位	タイプ	t1	H1	H2	上端筋	下端筋	あばら筋
外周一般	A	150	400	300	1-D13	1-D13	D10@200
中間部	B	150	350	-	1-D13	1-D13	D10@200
Y0開口部	A	150	50	300	2-D13	2-D16	D10@200

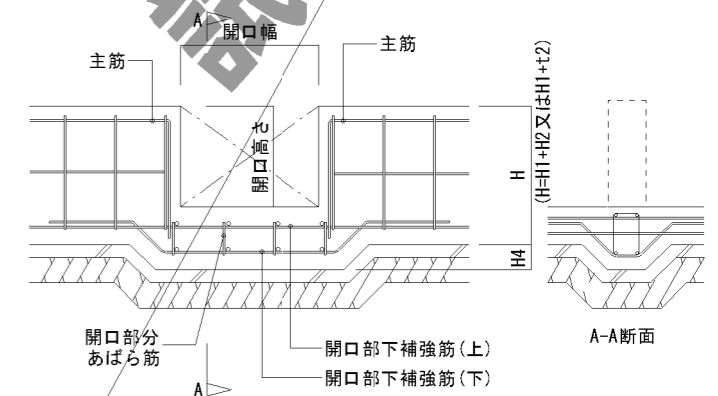
耐圧版形状		単位(mm)			
部位	スラブ厚 t2	H3	短辺方向 (主筋方向)	長辺方向 (配力筋方向)	備考
全て	150	50	D13@200	D13@200	

(3) 床下換気口の開口補強要領



符号	H	開口幅	開口高さ	開口部下 上端筋	開口部下 下端筋	開口部下 あばら筋	斜め補強筋

(4) 人通口周りの補強要領



符号	H	H4	開口幅	開口高さ	開口部下補強筋		
					上端筋	下端筋	あばら筋

(5) 土台

- ・構造耐力上主要な部分である柱で最下階の部分に使用するものの下部には、土台を設ける。
- ・土台はアンカーボルト (M12) + 座金 (厚) 4.5×40角×14φにより基礎に緊結。アンカーボルトは柱から200mm以内に設置し、設置間隔は2,700mm以内とすること。

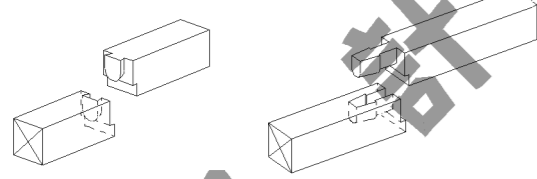
木造工事標準図 (2)

3. 横架材

(1) 継手

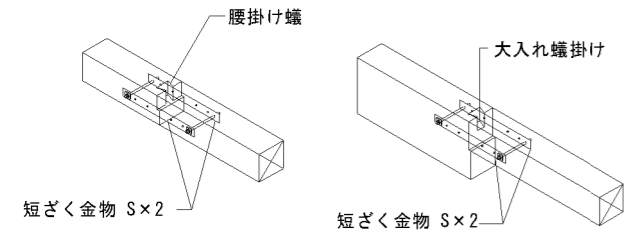
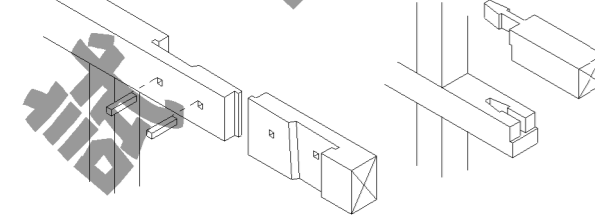
- ・横架材が負担する応力が大きい箇所には継手を設けないこと。
- ・継手は柱及び床下換気口の位置を避けること。
- ・継手はアンカーボルトが継手の上側の材の継手付近になるように設置すること。
- ・土台の継手の形状は、腰掛け蟻継ぎまたは腰掛けかま継ぎを標準とし他は特記による。

(腰掛け蟻継ぎ) (腰掛けかま継ぎ)



- ・横架材の継手は、梁および筋かいを受ける柱間を避け、柱より持ちおくり追掛大柱継ぎまたは腰掛けかま継ぎを標準とし、他は特記による

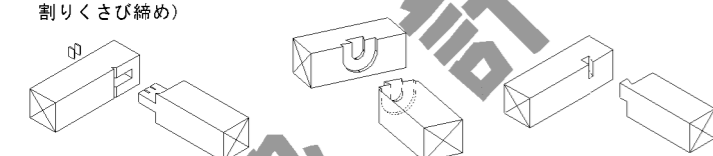
(追掛大柱継ぎ) (腰掛けかま継ぎ)



(2) 仕口

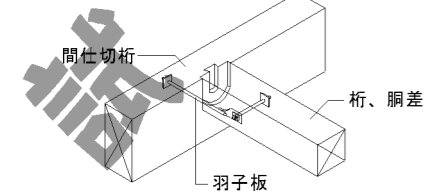
- ・隅部仕口は、大入れ小根ほぞ差し割りくさび締め、大入れ蟻掛けまたは片蟻掛けを標準とし、他は特記とする。

(大入れ小根ほぞ差し割りくさび締め) (大入れ蟻掛け) (片蟻掛け)



- ・T字取合部および十字取合部の仕口は大入れ蟻掛けとし、他は特記とする。
- ・主要な間仕切桁と桁または胴差とのT字取合部の仕口は、羽子板ボルト締めとする。

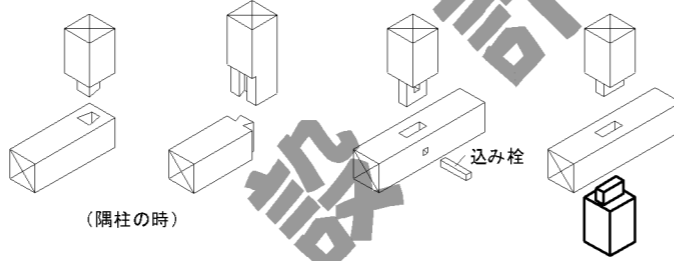
(大入れ蟻掛け)



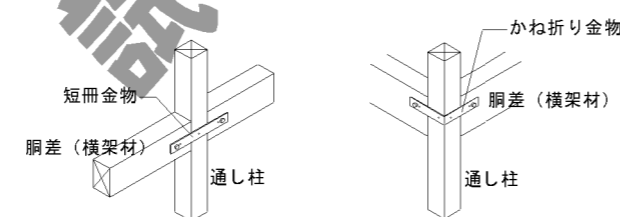
4. 柱

- ・中間部における柱の継手は原則として禁止する。
- ・柱と横架材との仕口は扇ほぞ差し、長ほぞ差し+込み栓打ち、短ほぞ差しを標準とし、他は特記とする。
- ・柱と土台との仕口で落とし蟻とする場合は、アンカーボルトとの位置に注意し、地震荷重時に柱が横ずれしないように金物で補強すること。
- ・特記なき仕口は上部、下部ともほぞ差しとし、木造工事標準図(4)10柱頭柱脚に示す金物を併用すること。

扇ほぞ差し 落とし蟻 長ほぞ差し+込み栓打ち 短ほぞ差し



- ・通し柱と胴差(横架材)の仕口は、金物による補強を行うこと。金物を下図の短冊金物、かね折り金物以外を用いる場合は特記とする。



通し柱を挟んで胴差相互を継ぐ場合

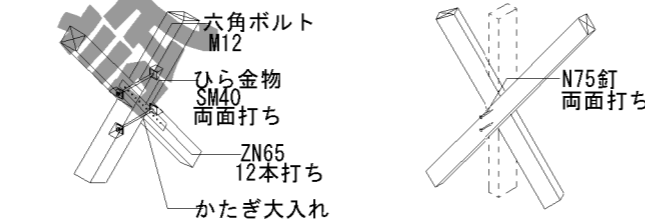
5. 筋かい端部 (令第45条、令第47条)

- ・筋かいには、欠込みをしてはならない。ただし、筋かいをたすき掛けにするためにやむを得ない場合において、必要な補強を行うこと。
- ・筋かい端部は平12建告1460号第一号の仕様又は同等認定品による金物で補強する。

例) 筋かいの場合

- イ 径9mm以上の鉄筋
柱又は横架材を貫通した鉄筋を三角座金を介してナット締めとしたもの又は当該鉄筋に止め付けた鋼板添え板に柱及び横架材に対してGN90を8本打ち付けたもの
- ロ 厚さ1.5cm以上で幅9cm以上の木材
柱及び横架材に欠き込み、柱及び横架材に対してそれぞれN65を8本平打ちしたもの
- ハ 厚さ3cm以上で幅9cm以上の木材
BP又は同等認定品
- ニ 厚さ4.5cm以上で幅9cm以上の木材
BP-2、BP-2FS又は同等認定品
- ホ 厚さ9cm以上で幅9cm以上の木材
柱又は横架材に径12mmのボルトを用いた一面せん断接合としたもの。
BP-3FSを用いても良い

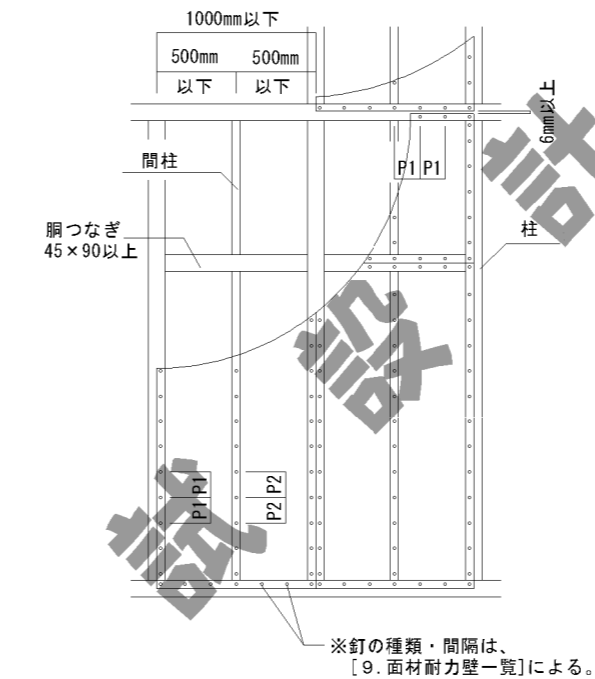
たすき掛け部分の取合い (筋かい断面90×90mm) (筋かい断面30×90mm、45×90mm)



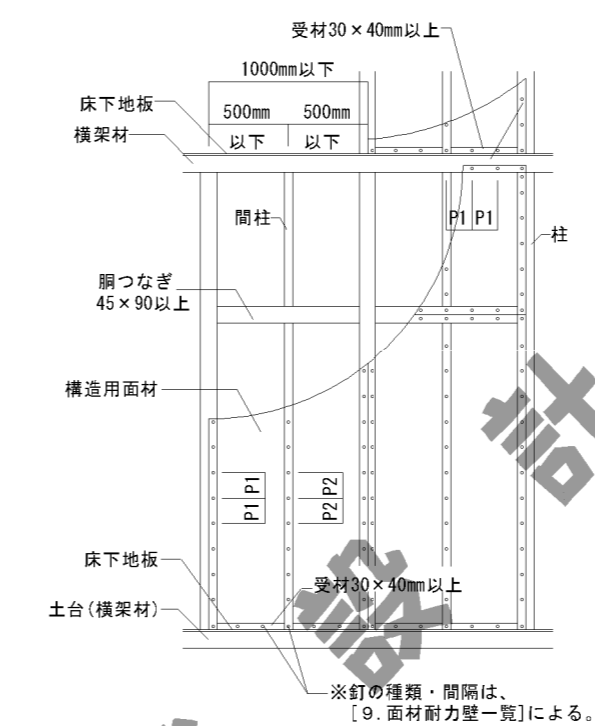
6. 大壁

- ・直行梁等により本来の位置に釘を打つことができない時は移動して必要本数を満たすよう釘を打つこと。

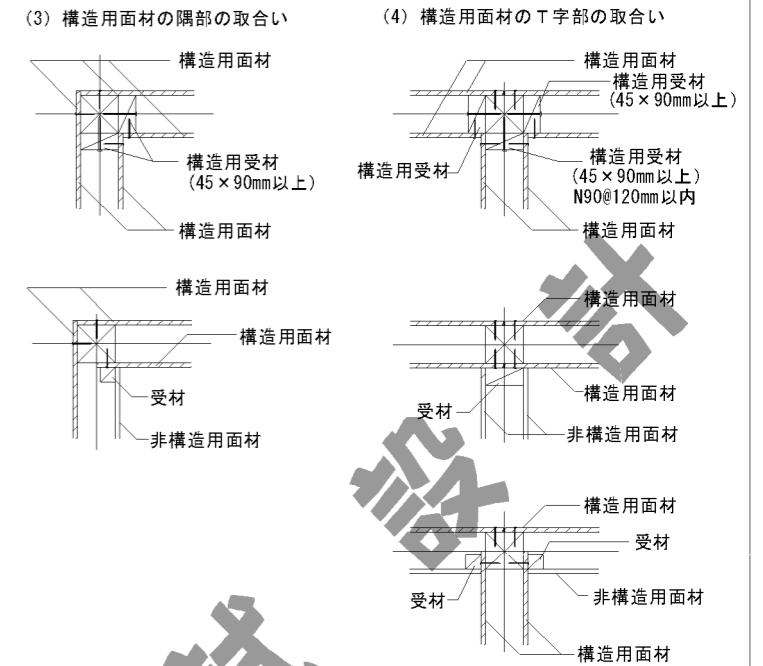
(1) 壁勝ち仕様



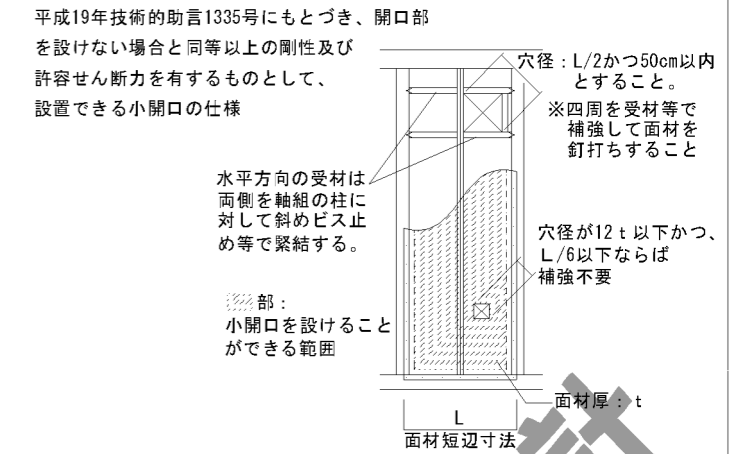
(2) 床勝ち仕様



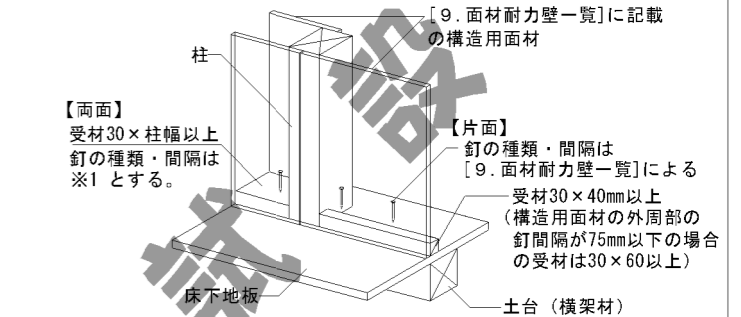
- 注) パーティクルボード・構造用パネル・ハードボードの突合せの間隔は、胴差以外の部分で2~3mmあける
- 注) 石膏ボード系以外で、床勝ち仕様を用いる場合は、各工法の認定書を工事監理者に提出し承認を得ること。



(5) 面材耐力壁の小開口の設け方



(6) 床勝ち仕様の取合い

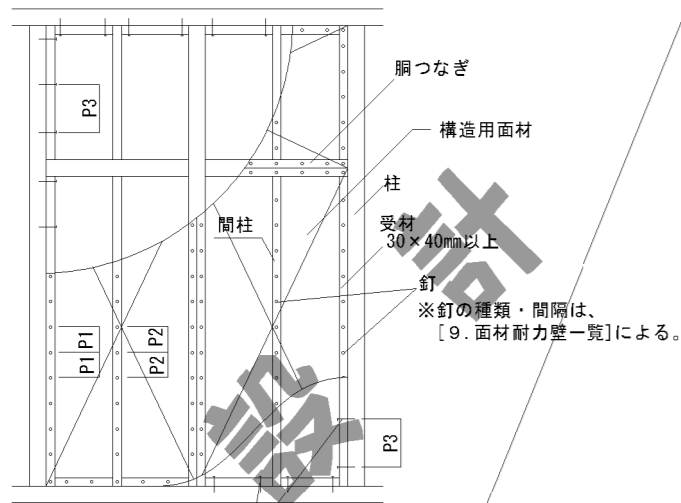


- ※1 構造用面材の両面の壁倍率の合計が5倍以下の場合 N75@120 構造用面材の両面の壁倍率の合計が5倍を超える場合は特記による。

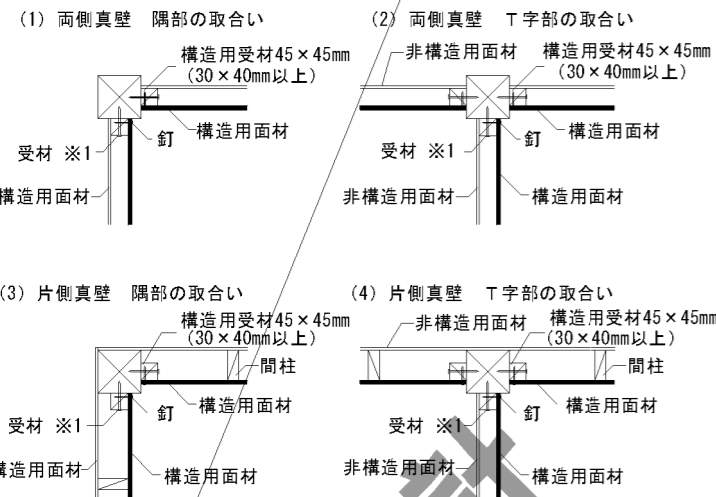
備考	設計者 □級建築士事務所 □□□建築設計事務所 □級建築士事務所 ○○○知事登録 第○○○○○号 □級建築士 ○○○登録 第○○○○○号 氏名○○太郎	件名 (仮称) A邸 新築工事	図面名称 木造工事標準図(2)	図面番号 10
		棟図	作図年月日 2026.02.28	縮尺 N.S

木造工事標準図 (3)

7. 真壁

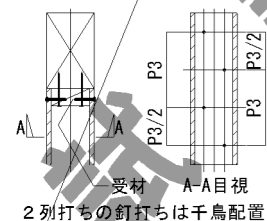


※ P3



※1 受材の釘の種類・間隔は [9. 面材耐力壁一覧]による。

両面貼りの受け材仕様



受け材の釘打ちを [9. 面材耐力壁一覧]に記す規定の間隔で2列で釘打ちする場合は千鳥配置とすること。

受材を打ち付ける釘の種類は、受材の厚みが30mmの場合のはN75、厚みが45mmの場合のは N90とし、他は特記とする。

P3 : [9. 面材耐力壁一覧]による間隔。

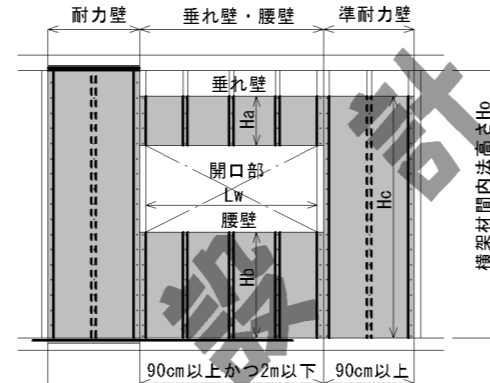
2列打ちの釘打ちちは千鳥配置とする

8. 準耐力壁

準耐力壁、垂れ壁・腰壁の壁倍率

$$\text{①木ずりの場合 壁倍率} = 0.5 \times \frac{\text{木ずりの高さの合計}}{\text{横架材間内法高さ}}$$

$$\text{②面材の場合 壁倍率} = \text{昭56建告1100号別の倍率} \times 0.6 \times \frac{\text{面材の高さの合計}}{\text{横架材間内法高さ}}$$



準耐力壁、垂れ壁・腰壁の成立条件

- 1) 面材は昭56建告1100号に示されたものとし、昭56建告1100号に定める仕様で、柱及び間柱に釘打ちとする。(面材の釘仕様は木造工事標準図(3)・8. 面材耐力壁一覧参照)
- 2) 木ずりは柱及び間柱に釘打ち(2-N50)とする。
- 3) 面材高さ(上図のHa、Hb)が36cm以上であること。
- 4) 準耐力壁は Ho ≥ 0.8Hoであること。また、壁長は90cm以上とする。
- 5) 垂れ壁・腰壁は、上図のLwは90cm以上かつ2m以下とし、耐力壁または準耐力壁ではさまれていること。

9. 面材耐力壁一覧

採用	面材の種類	種別	厚み	釘の種類	外周釘間隔 P1[mm]	内周釘間隔 P2[mm]	壁倍率	受材の釘 P3[mm]	備考	
■	構造用合板	大壁・大壁床勝ち	9mm (内壁5mm以上) (外壁:特類7.5mm以上)	N50又はNZ50	150mm	150mm	2.5	N75@200以下	採用板厚 9mm	
■	構造用合板	大壁・大壁床勝ち	9mm (9mm以上)	CN50又はCNZ50	75mm	150mm	3.7	N75@120以下	採用板厚 9mm	
□	構造用合板	真壁・真壁床勝ち	mm (内壁5mm以上) (外壁:特類7.5mm以上)	N50又はNZ50	150mm	150mm	2.5	N75@300以下		
□	構造用合板	真壁・真壁床勝ち	mm (9mm以上)	CN50又はCNZ50	75mm	150mm	3.3	N75@200以下		
□	構造用パネル	大壁・大壁床勝ち	mm (9mm以上)	N50又はNZ50	150mm	150mm	2.5	N75@200以下		
□	構造用パネル	大壁・大壁床勝ち	mm (9mm以上)		75mm	150mm	3.7	N75@120以下		
□	構造用パネル	真壁・真壁床勝ち	mm (9mm以上)		150mm	150mm	2.5	N75@300以下		
□	構造用パネル	真壁・真壁床勝ち	mm (9mm以上)		75mm	150mm	3.3	N75@200以下		
□	構造用パーティクルボード	大壁・大壁床勝ち	mm	N50又はNZ50	150mm	150mm	2.5	N75@200以下		
□	構造用パーティクルボード	大壁・大壁床勝ち	mm		75mm	150mm	4.3	N75@120以下		
□	構造用パーティクルボード	真壁・真壁床勝ち	mm		150mm	150mm	2.5	N75@300以下		
□	構造用パーティクルボード	真壁・真壁床勝ち	mm		75mm	150mm	4.0	N75@120以下		
□	構造用MDF	大壁・大壁床勝ち	mm	N50又はNZ50	150mm	150mm	2.5	N75@200以下		
□	構造用MDF	大壁・大壁床勝ち	mm		75mm	150mm	4.3	N75@120以下		
□	構造用MDF	真壁・真壁床勝ち	mm		150mm	150mm	2.5	N75@300以下		
□	構造用MDF	真壁・真壁床勝ち	mm		75mm	150mm	4.0	N75@120以下		
□	パーティクルボード	大壁・大壁床勝ち	mm (12mm以上)	N50又はNZ50	150mm	150mm	2.5	N75@200以下		
□	パーティクルボード	真壁・真壁床勝ち	mm (12mm以上)		150mm	150mm	2.5	N75@300以下		
□	せっこうボード	大壁・大壁床勝ち	mm (12mm以上)		GNF40, GNC40,	150mm	150mm	0.9	N75@300以下	
□	せっこうボード	真壁・真壁床勝ち	mm (12mm以上)		WSN又はDTSN	150mm	150mm	1.0	N75@300以下	
□	強化せっこうボード	大壁・大壁床勝ち	mm (12mm以上)	GNF40, GNC40,	150mm	150mm	0.9	N75@300以下		
□	強化せっこうボード	真壁・真壁床勝ち	mm (12mm以上)		WSN又はDTSN	150mm	150mm	1.0	N75@300以下	
□	構造用せっこうボードA種	大壁	mm (12mm以上)		GNF40, GNC40,	150mm	150mm	1.7		
□	構造用せっこうボードA種	大壁床勝ち	mm (12mm以上)			WSN又はDTSN	150mm	150mm	1.6	N75@300以下
□	構造用せっこうボードA種	真壁・真壁床勝ち	mm (12mm以上)	GNF40, GNC40,		150mm	150mm	1.5	N75@300以下	
□	構造用せっこうボードB種	大壁	mm (12mm以上)			WSN又はDTSN	150mm	150mm	1.2	
□	構造用せっこうボードB種	大壁床勝ち	mm (12mm以上)	GNF40, GNC40,	150mm	150mm	1.0	N75@300以下		
□	構造用せっこうボードB種	真壁・真壁床勝ち	mm (12mm以上)		WSN又はDTSN	150mm	150mm	1.3	N75@300以下	
□	ハードボード	大壁	mm (5mm以上)	N50又はNZ50	150mm	150mm	2.0			
□	硬質木片セメント板	大壁	mm (12mm以上)	N50又はNZ50	150mm	150mm	2.0			
□	シーリングボード	大壁	mm (12mm以上)	SN40	100mm	200mm	1.0			
□	炭酸マグネシウム板	大壁	mm (12mm以上)	GNF40orGNC40	150mm	150mm	2.0			
□	パルプセメント板	大壁	mm (8mm以上)	GNF40orGNC40	150mm	150mm	1.5			
□	ラスシート	大壁	mm	N38又はNZ38	150mm	150mm	1.0			
□	木ずり									
□	土塗り壁									
□	面格子壁									
□	落とし込み板壁									
□	せっこうラスボード	真壁	mm (9mm以上)	GNF32, GNC32 WSN又はDTSN	150mm	150mm	1.5	N75@300以下		
□										
□										
□										
□										

準耐力壁・垂れ壁等

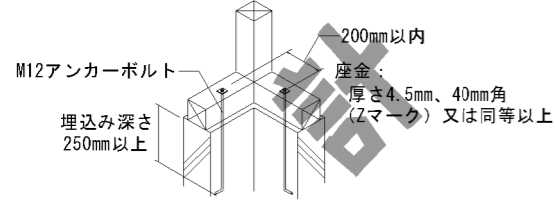
採用	面材の種類	種別	厚み	釘の種類	外周釘間隔	内周釘間隔	基準倍率	備考
□	木ずり	大壁		N50	150mm	150mm	0.5	
□	構造用合板	大壁	9mm (内壁5mm以上) (外壁:特類7.5mm以上)	N50	150mm	150mm	2.5	採用板厚 9mm
□	パーティクルボード	大壁	mm (12mm以上)	N50	150mm	150mm	2.5	
□	構造用パネル	大壁	mm (12mm以上)	N50	150mm	150mm	2.5	
■	せっこうボード	大壁	mm (12mm以上)	GNF40orGNC40	150mm	150mm	0.9	
□								
□								
□								

木造工事標準図 (4)

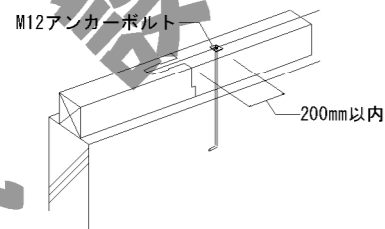
10. 柱頭・柱脚 (令第42条)

(1) 土台用アンカーボルト

- ・M12アンカーボルトは@2,000以内に配置、基礎への埋込み深さは250mm以上とする。
- ・アンカーボルトは、耐力壁両端の柱に近接(200mm以内)して配置すること。(但し、ホールダウン用アンカーボルトを取り付けた場合は、移動して配置すること。)



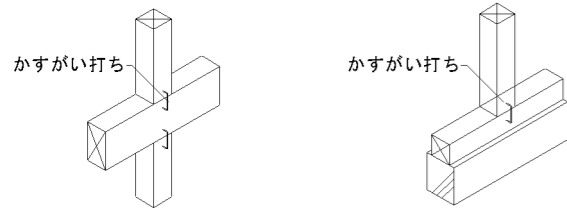
- ・アンカーボルトは、土台の継手位置に近接(200mm以内)して配置すること。



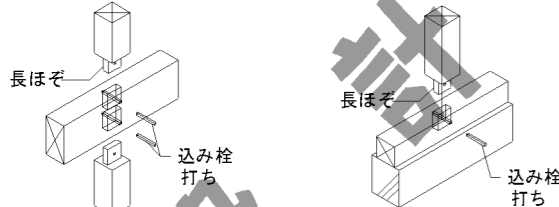
(2) 軸組の柱脚及び柱頭仕口の接合方法 (令第47条)

- ・柱頭及び柱脚の仕口は平12建告1460号第二号の仕様又は同等認定品による金物で補強する。

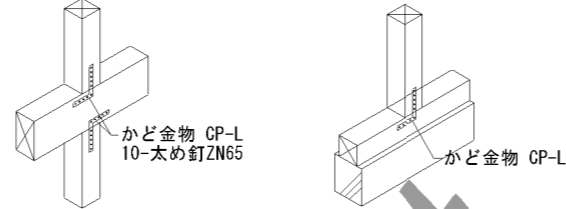
(い) かすがい打ち



(ろ) 長ほぞ差し込み栓打ち



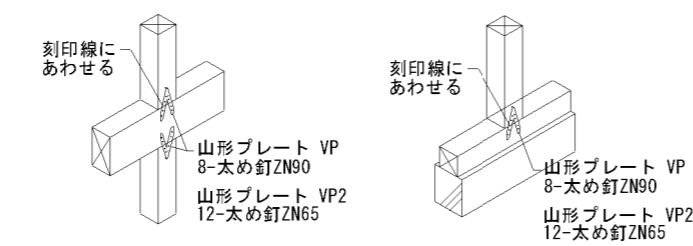
(ろ) かど金物 CP-L



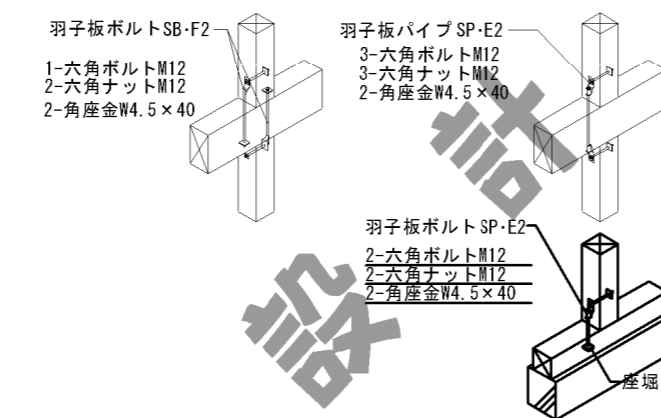
(は) かど金物 CP-T



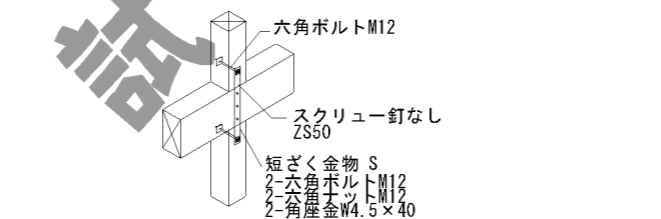
(は) 山形プレート VP、VP2



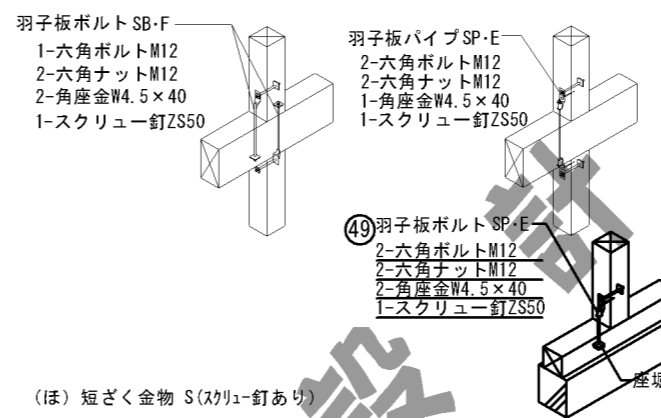
(に) 羽子板ボルト SB-F2(E)、羽子板パイプ SP-E2



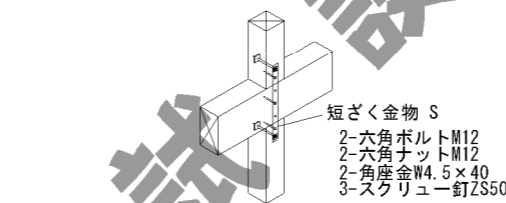
(に) 短ざく金物 S (スクリュー釘なし)



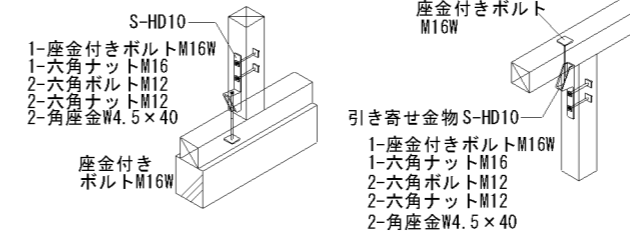
(ほ) 羽子板ボルト SB-F(E) 羽子板パイプ SP-E



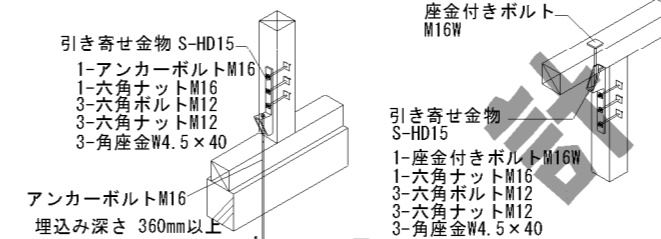
(ほ) 短ざく金物 S (スクリュー釘あり)



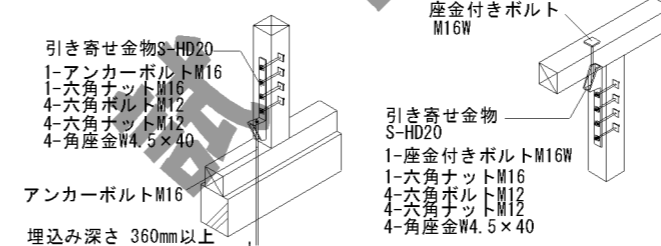
(へ) 引き寄せ金物 S-HD10



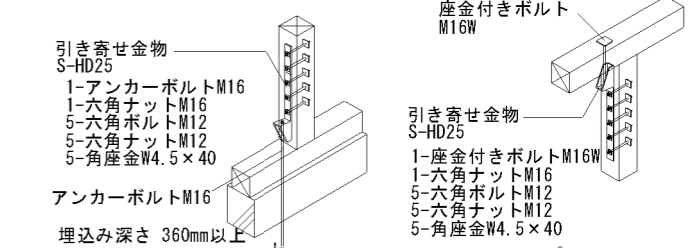
(と) 引き寄せ金物 S-HD15



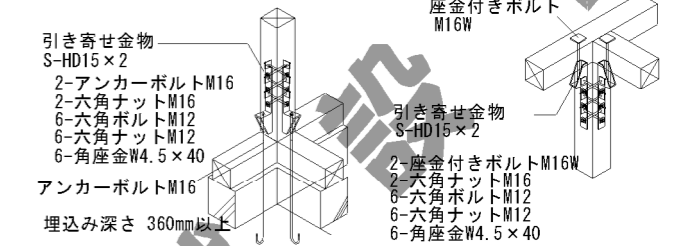
(ち) 引き寄せ金物 S-HD20



(り) 引き寄せ金物 S-HD25



(め) 引き寄せ金物 S-HD15x2



注・同一階の柱頭・柱脚金物は同等耐力のものを使用すること。
 ・引き寄せ金物のボルトを上下階に通して共用する場合は上下階とも耐力の大きい方の金物を使用すること。
 (へ)～(ぬ) 共通
 ・ビス止め等のホールダウン採用の際は採用金物メーカーの標準図に準拠すること。

※ 告示1460号第二号 (柱脚及び柱頭における柱接合金物)

告示表3	Nの値 必要耐力	継手・仕口の仕様
(い)	0 以下 0.0KN	短ほぞ差し又は、かすがい打ち
(ろ)	0.65以下 3.4KN	長ほぞ差し込み栓打ち又は、かど金物CP-L
(は)	1.0以下 5.1KN	かど金物CP-T 山形プレートVP
(に)	1.4以下 7.5KN	羽子板ボルト又は、短ざく金物(スクリュー釘なし)
(ほ)	1.6以下 8.5KN	羽子板ボルト又は、短ざく金物(スクリュー釘あり)
(へ)	1.8以下 10.0KN	引き寄せ金物S-HD10
(と)	2.8以下 15.0KN	引き寄せ金物S-HD15
(ち)	3.7以下 20.0KN	引き寄せ金物S-HD20
(り)	4.7以下 25.0KN	引き寄せ金物S-HD25
(ぬ)	5.6以下 30.0KN	引き寄せ金物S-HD15x2個

・35kN以上のビス止め等のホールダウン採用の際は採用金物メーカーの標準図に準拠すること。

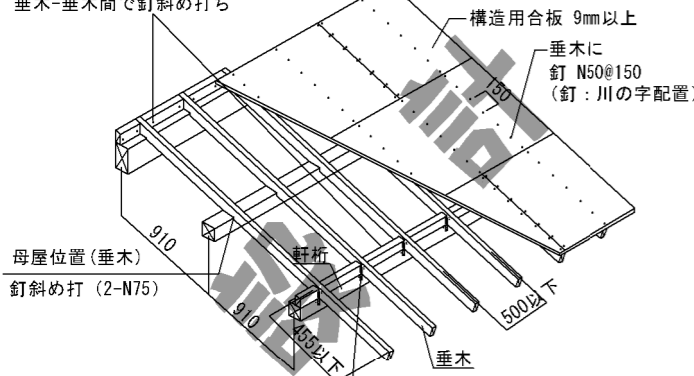
木造工事標準図 (5)

11. 水平構面 (令第46条第3項)

(1) 屋根の納まり

単位長さあたりの許容せん断耐力	品確法
勾配の角度: 30度以下 1.37 [kN/m]	0.7
45度以下 0.98 [kN/m]	0.5

軒桁、棟木位置には
転び止め(垂木と同寸)を配置
垂木-垂木間で釘斜め打ち

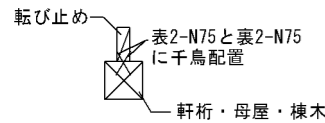


母屋位置(垂木)
釘斜め打 (2-N75)

軒桁位置(垂木)
ひねり金物ST-9または同等品
+釘斜め打ち (2-N75)
軒の出が600mm以上の場合は、くら金物を使用のこと。

□ 上記に加えて、転び止めの位置・仕様を下記とする。

軒桁・母屋・棟木の上面の垂木と垂木の間(母屋の場合は、垂木の継目が載る母屋)に、垂木と同断面の転び止め材を載せ(左右の垂木との隙間は3mm以下とする)、転び止め材の側面から軒桁・母屋・棟木の上面に4-N75(表2本と裏2本を千鳥配置)を斜め打ち。



単位長さあたりの許容せん断耐力	品確法
勾配の角度: 30度以下 1.96 [kN/m]	0.2
45度以下 1.37 [kN/m]	0.1

(2) 屋根の納まり (ひき板野地板)

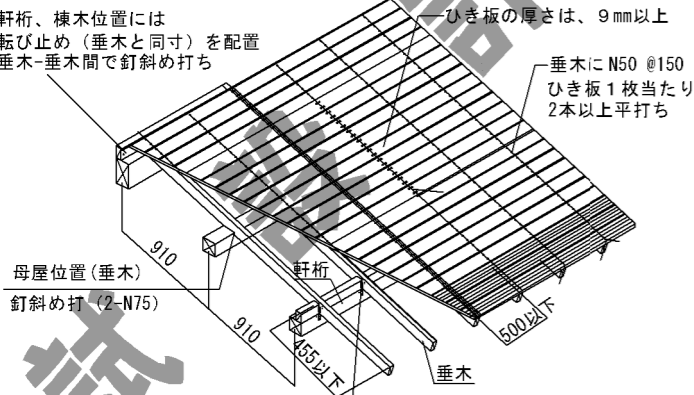
面材
厚さ9~15mm、幅180mm以上の板材

面材釘打ち仕様
板材をN50@150mmで垂木に打ち付け

垂木と軒桁・母屋・棟木の接合
垂木の側面から軒桁・母屋・棟木の上面に対して釘2-N75を斜め打ち

単位長さあたりの許容せん断耐力	品確法
勾配の角度: 30度以下 0.39 [kN/m]	0.2
45度以下 0.20 [kN/m]	0.1

軒桁、棟木位置には
転び止め(垂木と同寸)を配置
垂木-垂木間で釘斜め打ち

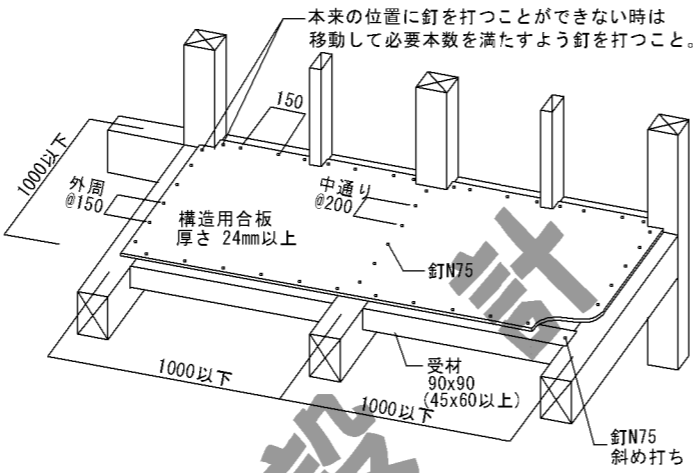


母屋位置(垂木)
釘斜め打 (2-N75)

軒桁位置(垂木)
ひねり金物ST-9または同等品
+釘斜め打ち (2-N75)
軒の出が600mm以上の場合は、くら金物を使用のこと。

継手は、板の登り約10枚ごとに乱継ぎとし、継手は垂木芯で突きつけとする。

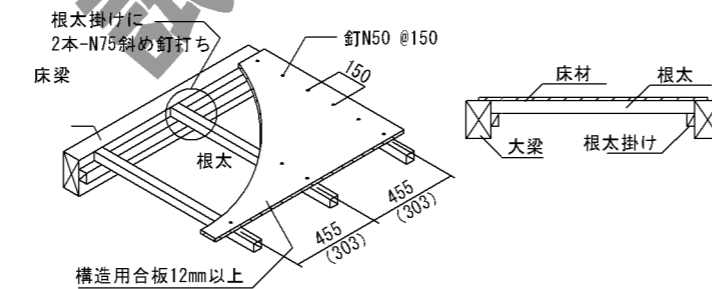
(3) 床水平構面 構造用合板厚24mm仕様



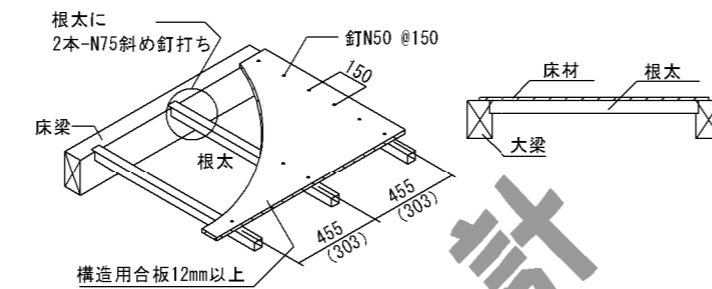
(4) 根太あり・根太高さ全て落とし込みの取合い

※根太の寸法及び間隔は、構造図記載の寸法とすること。

○根太受け材で固定する方法

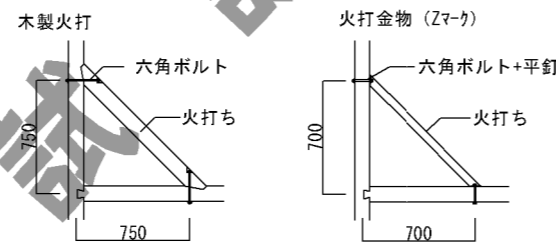


○床梁に落とし込む方法



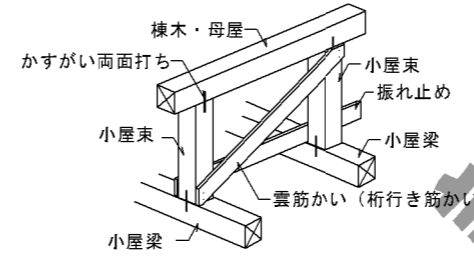
(5) 火打ち

- ・鋼製火打ちは、Zマーク又は同等認定品とする。
- ・火打ち内側には、横架材の継手は設けないこと。



12. 小屋束の上下端部 (令第46条第3項)

- ・短ほぞ差し又は長ほぞ差し込み栓打ちとする。
- ・短ほぞ差しの場合、風圧力による引張力の補強として、かすがい2本又はひら金物又は山形プレート止めとする。



備考	設計者 □級建築士事務所 □□□建築設計事務所 □級建築士事務所 ○○○知事登録 第○○○○○号 □級建築士 ○○○登録 第○○○○○号 氏名○○ 太郎	件名 (仮称) A邸 新築工事	図面名称 木造工事標準図(5)	図面番号 13
		棟図	作図年月日 2026.02.28	縮尺 N.S

壁量等の基準(令和7年施行)に対応した表計算ツール(2階建て用)(多機能版)

ver1.2.1

作成日	令和7年10月14日	物件名	(仮称) A邸 新築工事		
設計者		登録番号	登録第	氏名	
建築士事務所名	事務所	登録番号	知事 登録第		

- . 設計の用途を選択 (いずれかひとつのチェックボックスを選択してください。)
- 住宅性能表示制度を利用 非住宅(事務所建築) 左記以外(住宅・建築基準法のみ)

※使い方: 緑の枠に必要事項を入力するとオレンジの枠に結果が出力されます。

1. 単位面積当たりの必要壁量 L_w (単位 cm/m^2)

項目	入力欄	入力の注意点等													
		入力欄													
2階階高 h_2 (m)	2.764	小屋梁・桁上端～2階床梁上端までの距離													
1階階高 h_1 (m)	3.000	2階床梁上端～1階土台上端までの距離													
建物の最高高さ一軒高さ(m)	2.053	建物の頂点～小屋梁・桁上端までの距離													
—	—	—													
標準せん断力係数 C_0	0.2	軟弱地盤の指定がある場合は0.3(不明な場合は特定行政庁に確認)													
—	—	—													
—	—	—													
2階床面積(m^2)	24.84	(ここでは小屋裏面積を含めなくともよい。)													
1階床面積(m^2)	24.84	(ここでは小屋裏面積を含めなくともよい。)													
軒の出(m)	0.300	壁芯から軒先瓦の先端までの長さ													
屋根勾配(寸)	4.00	屋根勾配(度に変換) 21.8度 ※屋根形状係数を求める場合にお使いください。													
屋根の仕様	スレート屋根	プルダウン選択													
外壁の仕様	サイディング	プルダウン選択													
太陽光発電設備等(N/m^2)	あり(200) (部位面積あたり)	太陽光発電設備等の質量を任意入力したい場合は「あり(任意入力)」*2をプルダウン選択し、右欄(緑)にその質量を入力する。	下記への入力不要です。 設備等の質量 (kg)												
天井(屋根)断熱材(N/m^2)	100 (初期値・天井)	断熱材の密度と厚さを任意入力したい場合は、「任意入力」をプルダウン選択し、右欄(緑)に値を入力	下記への入力不要です。 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>該当面積(m^2)</th> <th>密度(kg/m^3)</th> <th>厚さ(mm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>仕様①</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>仕様②</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		該当面積(m^2)	密度(kg/m^3)	厚さ(mm)	仕様①				仕様②			
	該当面積(m^2)	密度(kg/m^3)	厚さ(mm)												
仕様①															
仕様②															
外壁断熱材(N/m^2)	70 (初期値)	断熱材の密度と厚さを任意入力したい場合は、「任意入力」をプルダウン選択し、右欄(緑)に値を入力する。	下記への入力不要です。 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>密度(kg/m^3)</th> <th>厚さ(mm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>仕様①</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>仕様②</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		密度(kg/m^3)	厚さ(mm)	仕様①			仕様②					
	密度(kg/m^3)	厚さ(mm)													
仕様①															
仕様②															

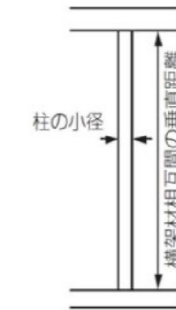
*1: 固定荷重・積載荷重の根拠は [こちら](#)。
 *2: 屋根面積に対しての均し荷重として算定される。

出力結果	【単位面積当たりの必要壁量】	等級	1階	2階	※出力結果が空白の場合は、入力内容が不足している可能性があります。
		基準法	42	24	
		—	—	—	

- 2-1 算定式と有効細長比より柱の小径を求める場合
 算定方法における前提条件と注意事項は [こちら](#)。

階	出力結果	
	d_e/l *3	柱の小径 d_e *4 (mm以上)
2階	1/33.6	79
1階	1/27.6	104

*3: 柱の必要小径 d_e /横架材間距離 l



*4: すぎ、無等級材(平成12年建設省告示第1452号第5号)を前提として算定。解説・注意事項